

今後の台風期に備えた山国川防災対応説明会

日 時：平成29年 9月 4日（月）
14：00～15：30
場 所：山国川河川事務所
1F 会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 題

- 1) H29.7.5 九州北部豪雨における山国川の出水状況と治水効果について
- 2) H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について
- 3) 耶馬溪ダムの操作、新たな取り組み（事前放流の開始）について
- 4) 意見交換

4. 閉 会

主旨

平成24年7月九州北部豪雨から5年しか経っていない内に、同程度の豪雨が平成29年7月5日に発生し、大分県中津市をはじめ、大分県日田市、福岡県朝倉市、東峰村、添田町において、甚大な被害が発生した。

山国川沿いにおいて、中津市山国町草本の土砂崩れ、中津市本耶馬溪町多志田の国道212号の護岸崩壊等の被害が発生したが、平成24年7月豪雨時の被害と比較すると大幅に減少した。

これは、地域の方々の協力等により、護岸・掘削等の河川整備によるハード対策の推進と5年前の教訓を活かした迅速な水防対応と避難活動等のソフト対策が機能したためであると思われる。さらに行政間においても、「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、各組織においての水害対応促進に加え、事前の情報共有が出水期前を出水期前に実施したことにより各組織が連携できたことが大きいと思われる。

本会議において、『山国川圏域水防災意識社会推進協議会』を構成する各組織が、今回の豪雨に対する認識を共有するとともに、今年度発生したゲリラ豪雨による急激な水位の上昇減少、耶馬溪ダムの操作・事前放流等について情報共有し、今後の台風の対応について、改めて認識を共有するものである。

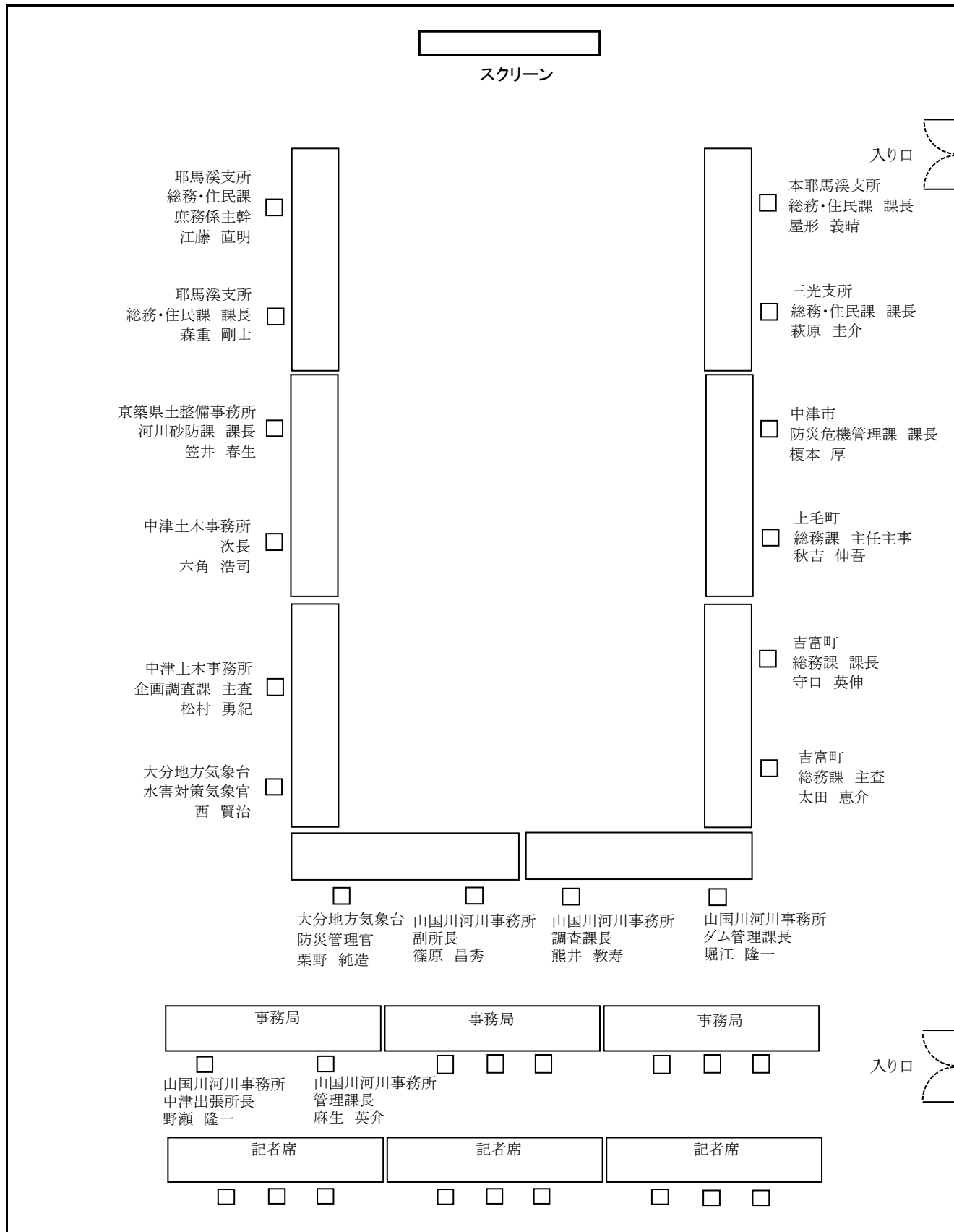
今後の台風期に備えた山国川防災対応説明会

H29.9.4

機 関	所 属	役 職	氏 名
気象庁 大分地方气象台		防災管理官	栗野 純造
		水害対策気象官	西 賢治
大分県中津土木事務所		次長	六角 浩司
	企画調査課	主査	松村 勇紀
福岡県京築県土整備事務所	河川砂防課	課長	笠井 春生
中津市	防災危機管理課	課長	榎本 厚
	三光支所 総務・住民課	課長	萩原 圭介
	本耶馬溪支所 総務・住民課	課長	屋形 義晴
	耶馬溪支所 総務・住民課	課長	森重 剛士
		庶務係主幹(総括)	江藤 直明
吉富町	総務課	課長	守口 英伸
		主査	太田 恵介
上毛町	総務課	主任主事	秋吉 伸吾
山国川河川事務所		技術副所長	篠原 昌秀
	調査課	調査課長	熊井 教寿
	管理課	管理課長	麻生 英介
	ダム管理課	ダム管理課長	堀江 隆一
	中津出張所	中津出張所長	野瀬 隆一

今後の台風期に備えた山国川防災対応説明会

座席表



順不同、敬称略

今後の台風期に備えた 山国川防災対応説明会

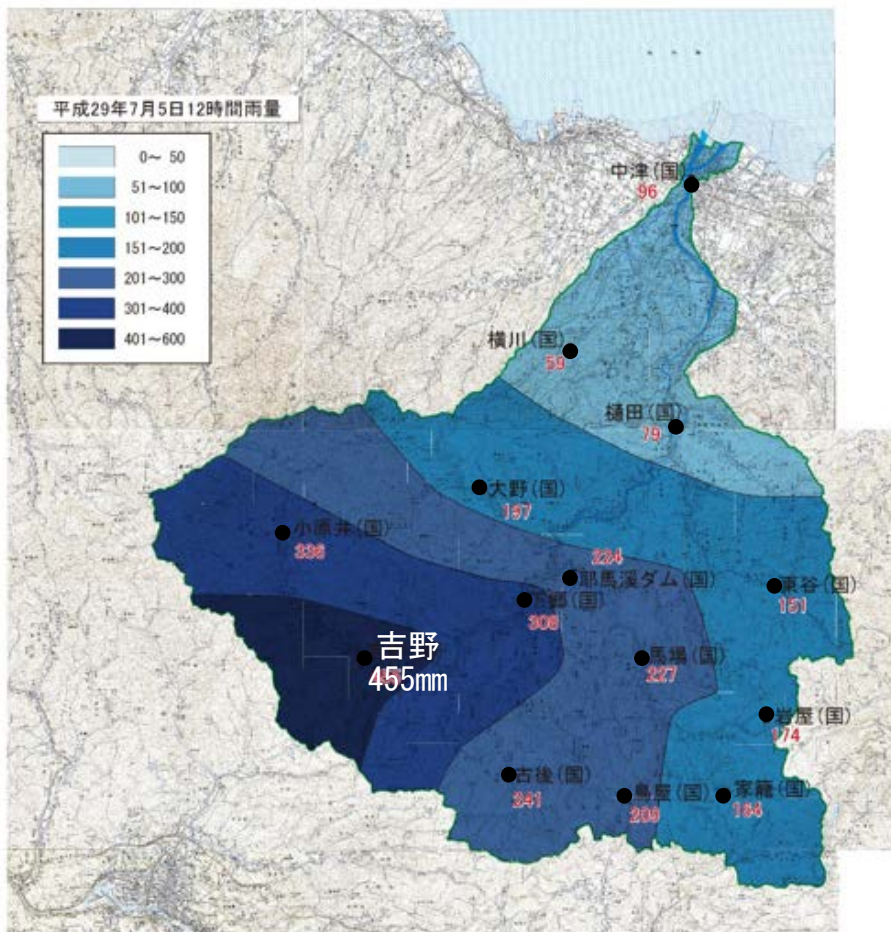
山国川河川事務所
平成29年9月4日

1) H29. 7. 5 九州北部豪雨
における山国川の出水状況
と治水効果について

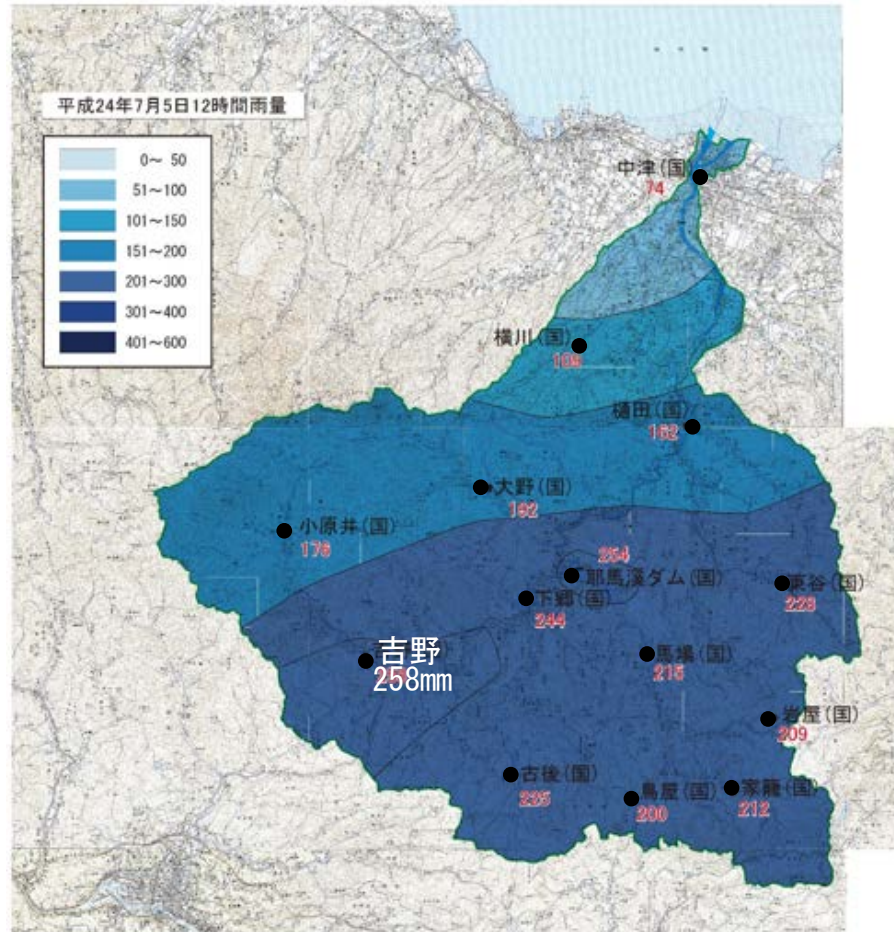
雨量の概要

山国川流域では、吉野雨量観測所において、12時間雨量が455ミリを記録し、同じく、甚大な被害が発生した平成24年7月3日の降雨量12時間258ミリを越える雨量を記録。

【今回出水】平成29年7月5日洪水（12時間雨量）



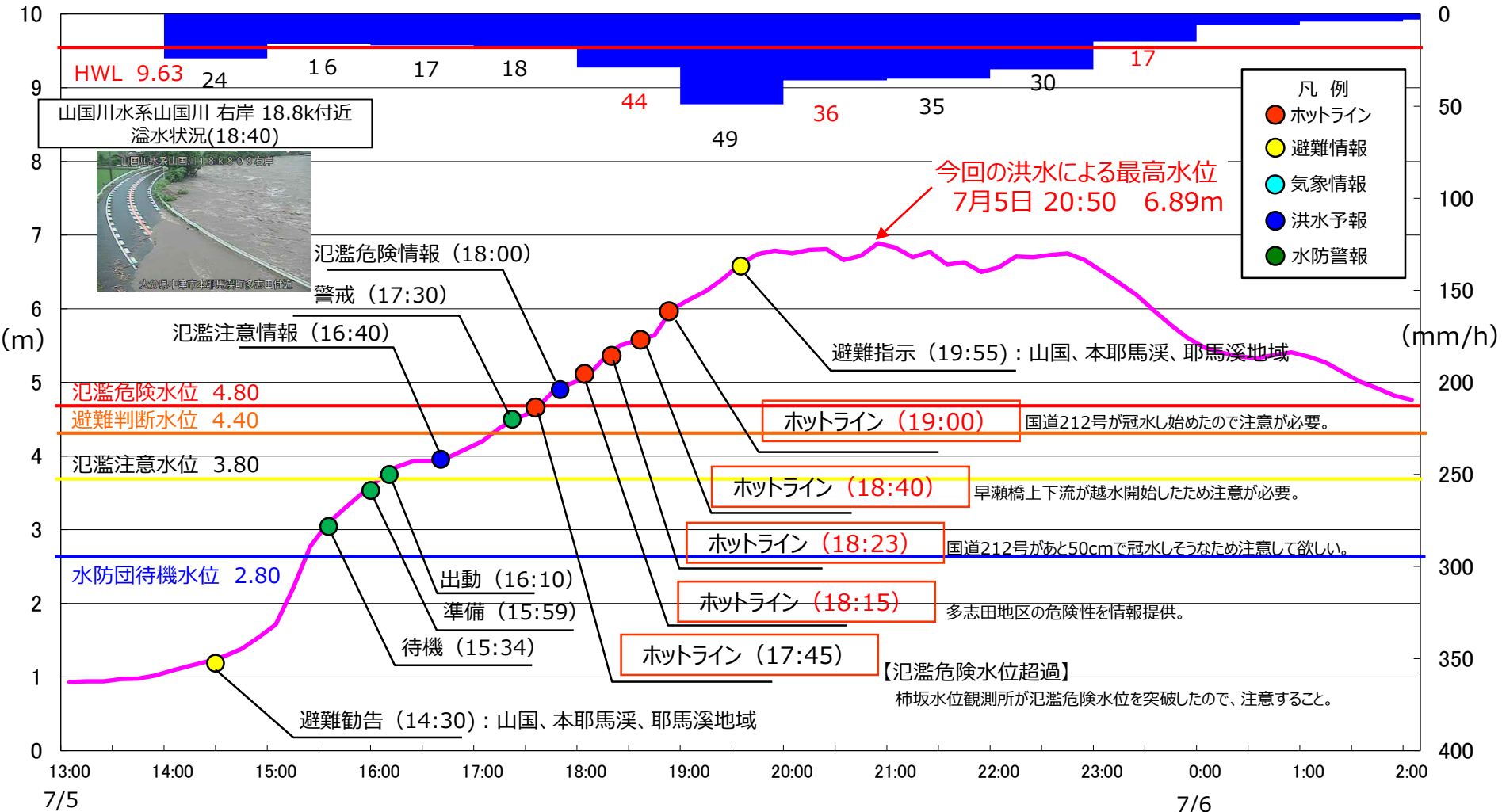
【今回出水】平成24年7月3日洪水（12時間雨量）



※数値は、速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

水位の概要

山国川水系山国川の柿坂観測所において、7月5日20時50分に観測史上第2位の水位（6.89m）を記録。



※数値は、速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

浸水被害の概要

耶馬溪地域全体（国管理区間）において、今回出水では床下浸水2戸であり、平成24年7月洪水と比較して浸水被害が激減。

■ 一般被害の状況



国管理区間の被害状況		H24.7.3洪水	H24.7.14洪水	H29.7.5洪水(速報)	
浸水区域面積		ha	58.1	50.1	1.8
家屋被害	床上浸水	戸	132	125	0
	床下浸水	戸	62	63	2
	計	戸	194	188	2

※今回洪水は速報値であり、今後の調査結果により変わる可能性があります。



凡例	
	: H24.7.3 浸水範囲
	: H24.7.14 浸水範囲
	: 今回出水 浸水範囲

被災状況の概要

山国川（国管理区間）において、5箇所応急対策を実施し、うち3箇所について災害申請中。

①山国川左岸26k700付近
護岸損壊 L=約200m



②山国川右岸26k400付近
護岸損壊 L=約20m



③山国川左岸24k900付近
護岸損壊 L=約100m



④山国川左岸23k200付近
護岸損壊 L=約100m



⑤山国川右岸19k800付近
堤防洗掘 L=約20m



応急復旧の状況

山国川水系山国川において、堤防欠損等が生じた区間に対して7月6日より応急復旧に着手。



応急復旧作業状況（山国川右岸19k200付近）
【中津市本耶馬溪町多志田地区】



応急復旧完了

山国川に流れ出た塵芥の状況と対応

山間部の樹木等が河川へ流出し、山国川全川に渡って多くの塵芥が堆積。耶馬溪ダムでは、網場により多くの塵芥を捕捉。

堆積状況



塵芥・土砂撤去状況



馬溪橋周辺（平田・戸原地区）の治水効果

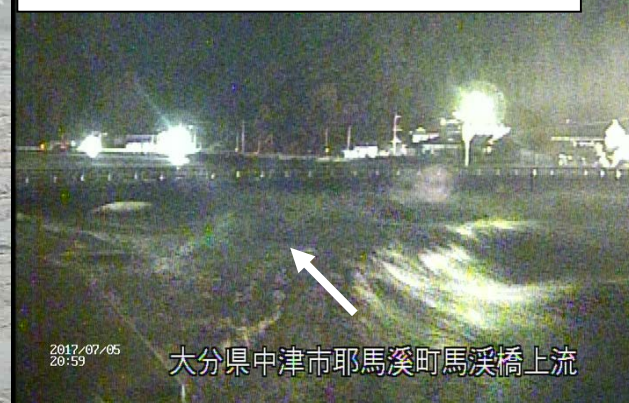
平成24年7月の九州北部豪雨において堤防越水による浸水被害が生じた馬溪橋周辺では、上下流の河道掘削・堤防整備及び県・市・国による河道内の樹木伐採により、今回の出水による外水被害は生じていない。

平成24年7月3日洪水時の状況

馬溪橋



平成29年7月5日21:00現在（ピーク時）



事業実施前



平成24年7月3日洪水直後の状況

馬溪橋



平成29年7月6日6:00現在 左岸



事業実施後

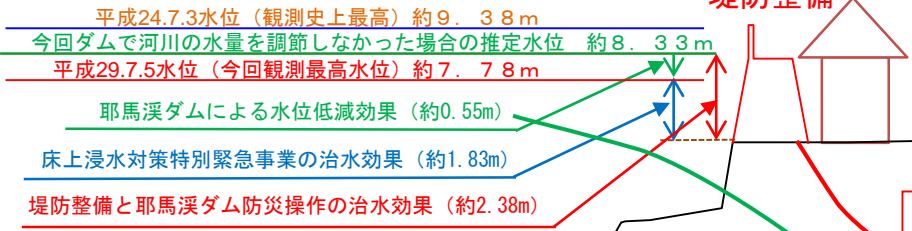


山国川河川改修と耶馬溪ダムの治水効果（青地区）

- ・「床上浸水対策特別緊急事業」を平成25年5月から実施中。青地区は既に堤防が完成していた。
- ・耶馬溪ダムでは、7月5日に防災操作を開始し、ダム下流へ流す水量を最大で約4割低減していた。
- ・今回の洪水では、堤防未整備であれば約2.38m程度溢水していたところ、堤防整備と耶馬溪ダム防災操作により浸水被害は発生していない。
- ・H24.7.3洪水で43戸の浸水があった青地区（青の洞門、競秀峰）で浸水が0戸に解消。

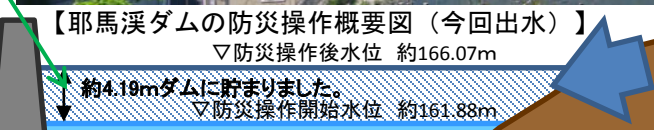


■青地区河川横断面イメージ



被害状況		H24.7.3洪水	H24.7.14洪水	H29.7.5洪水 （今回洪水）
浸水区域面積		ha	51.7	50.2
家屋 被害	床上浸水	戸	36	31
	床下浸水	戸	7	10
	計	戸	43	41

※本資料は、速報値の為、今後の調査等によって、変更となる可能性があります。



〈放流量〉
下流河川へ流す
水量約217m³/s

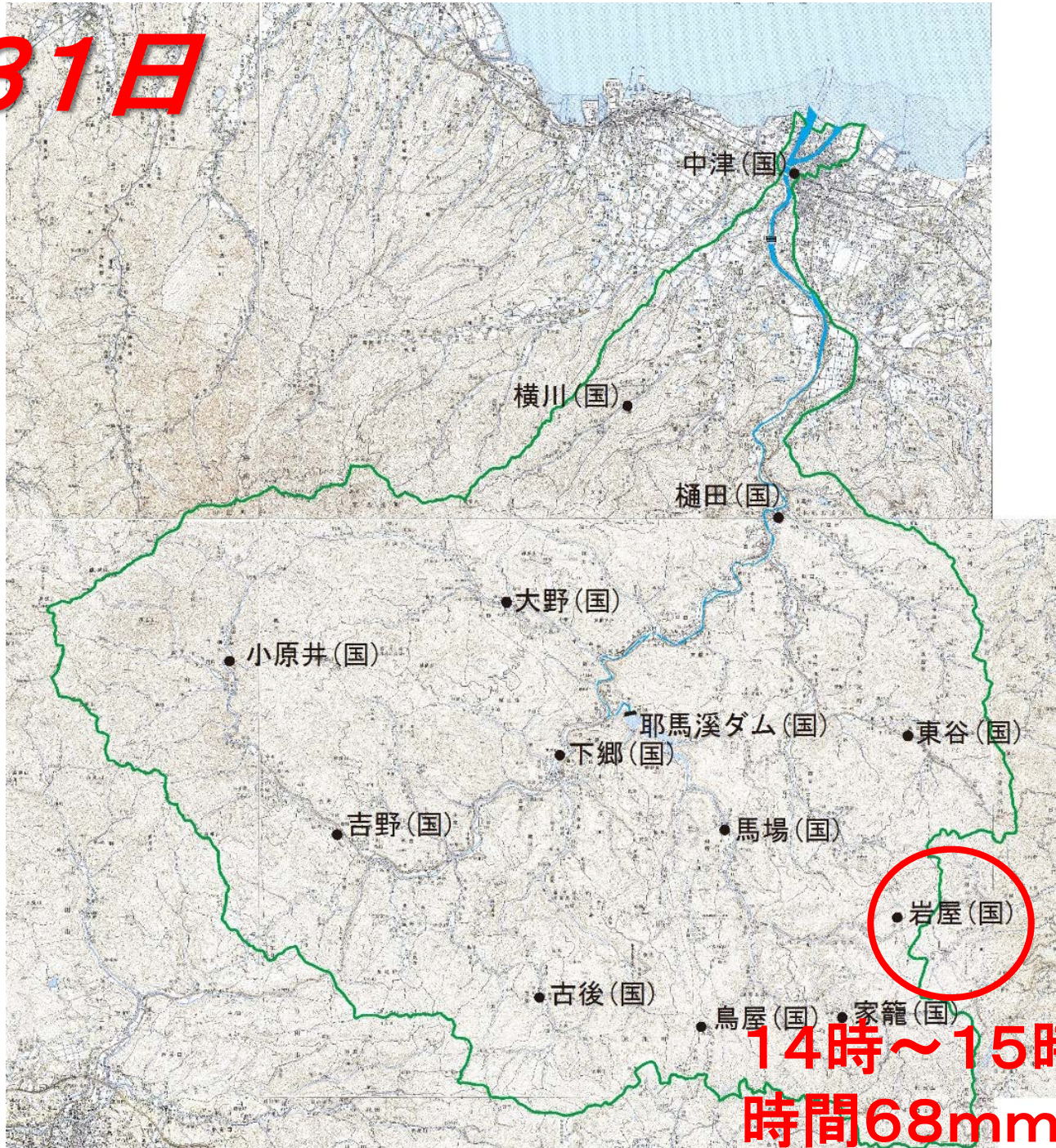
水道用水などに利用するために
常時貯めている水量

〈流入量〉
ダムへ流れてくる水量
約560m³/s

ダムへ流れてくる水量の約4割低減させて流しました。

2) H29. 7. 31 上流部短時間集中
豪雨による急激な水位上昇に
ついて

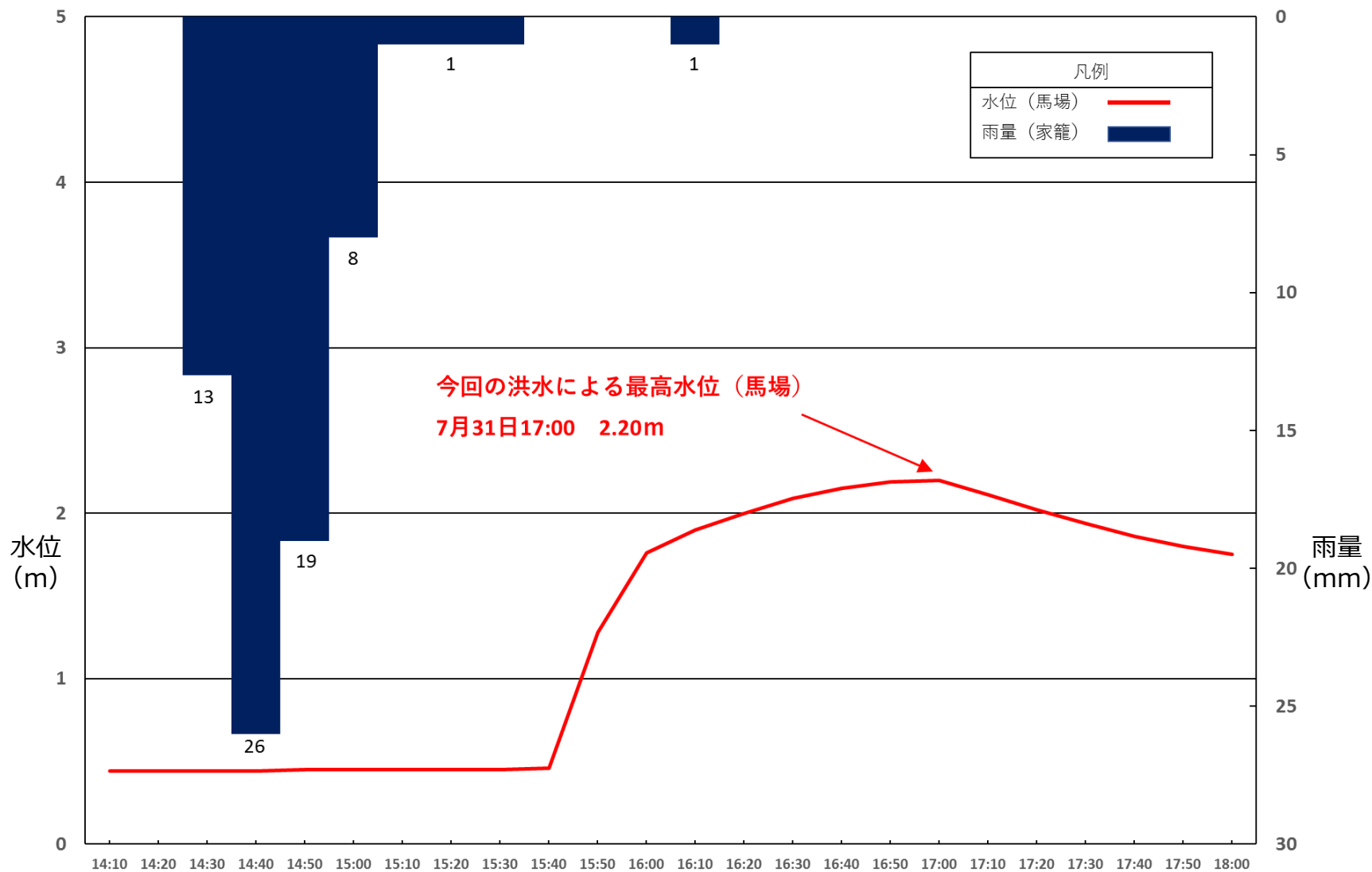
7月31日



14時~15時
時間68mm

水位の概要（山国川水系山国川）

山国川水系山国川 平成29年7月31日馬場水位観測所－鳥屋・家籠・岩屋雨量観測所



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

急激な水位上昇 1 (山国川水系山移川)

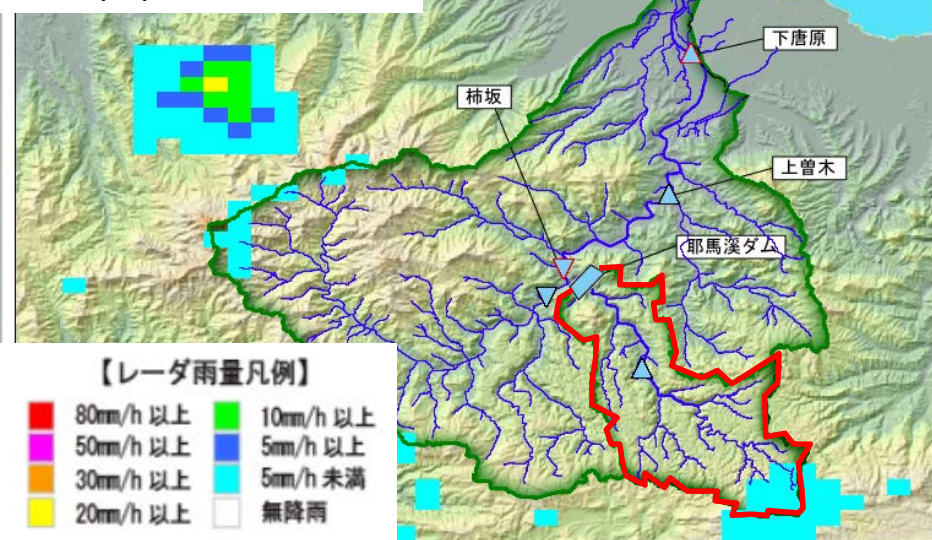
山国川水系山移川の馬場水位観測所において、7月31日15時45分に急激な水位上昇(1.31m上昇)を記録。上流にある岩屋雨量観測所では同日15時の1時間に68mmを記録。



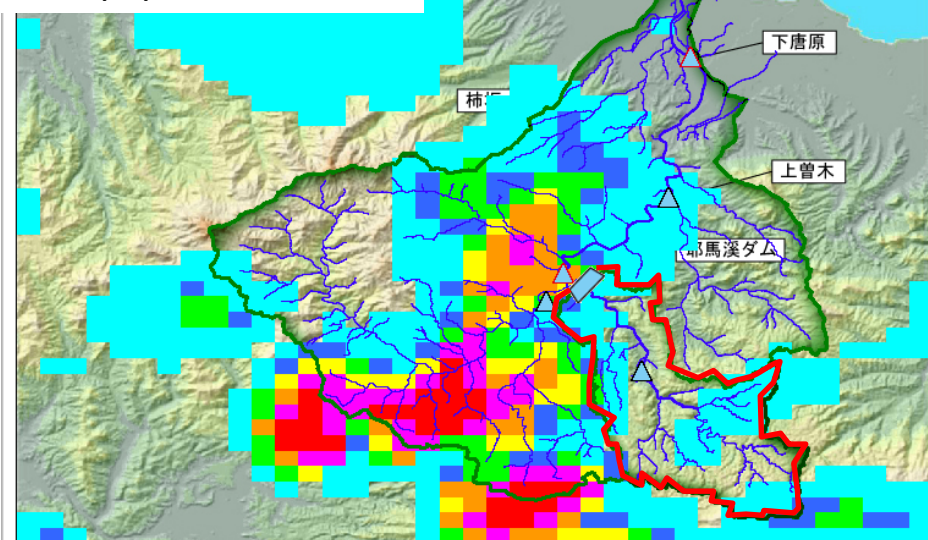
H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について

～ 流域の降雨状況 ～

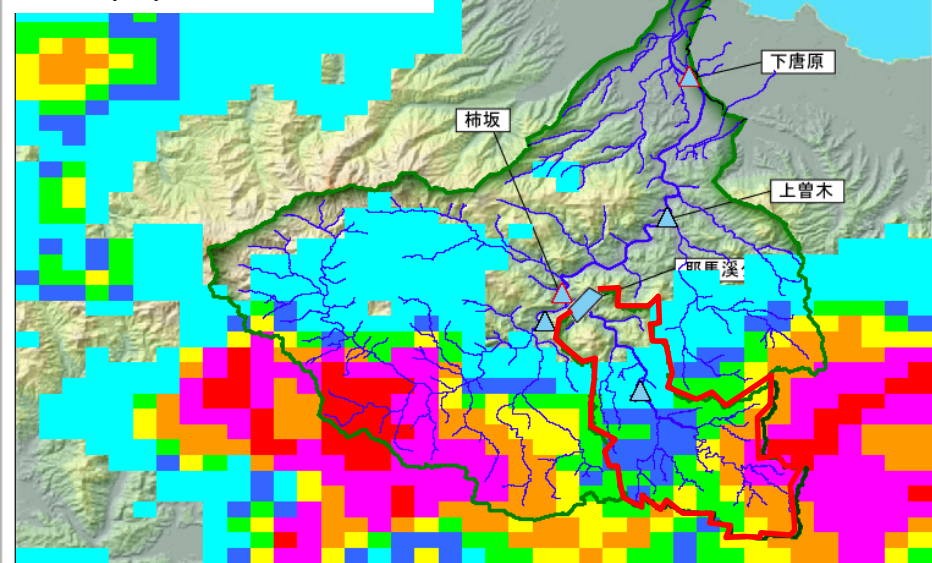
H29.7.31 12:00



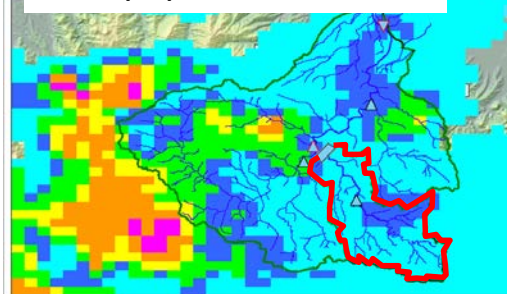
H29.7.31 14:00



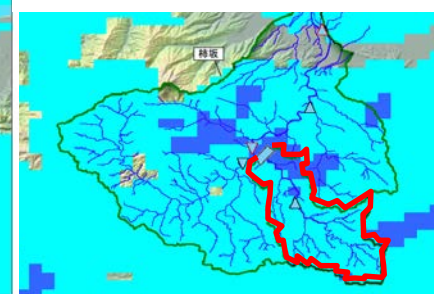
H29.7.31 15:00



H29.7.31 16:00



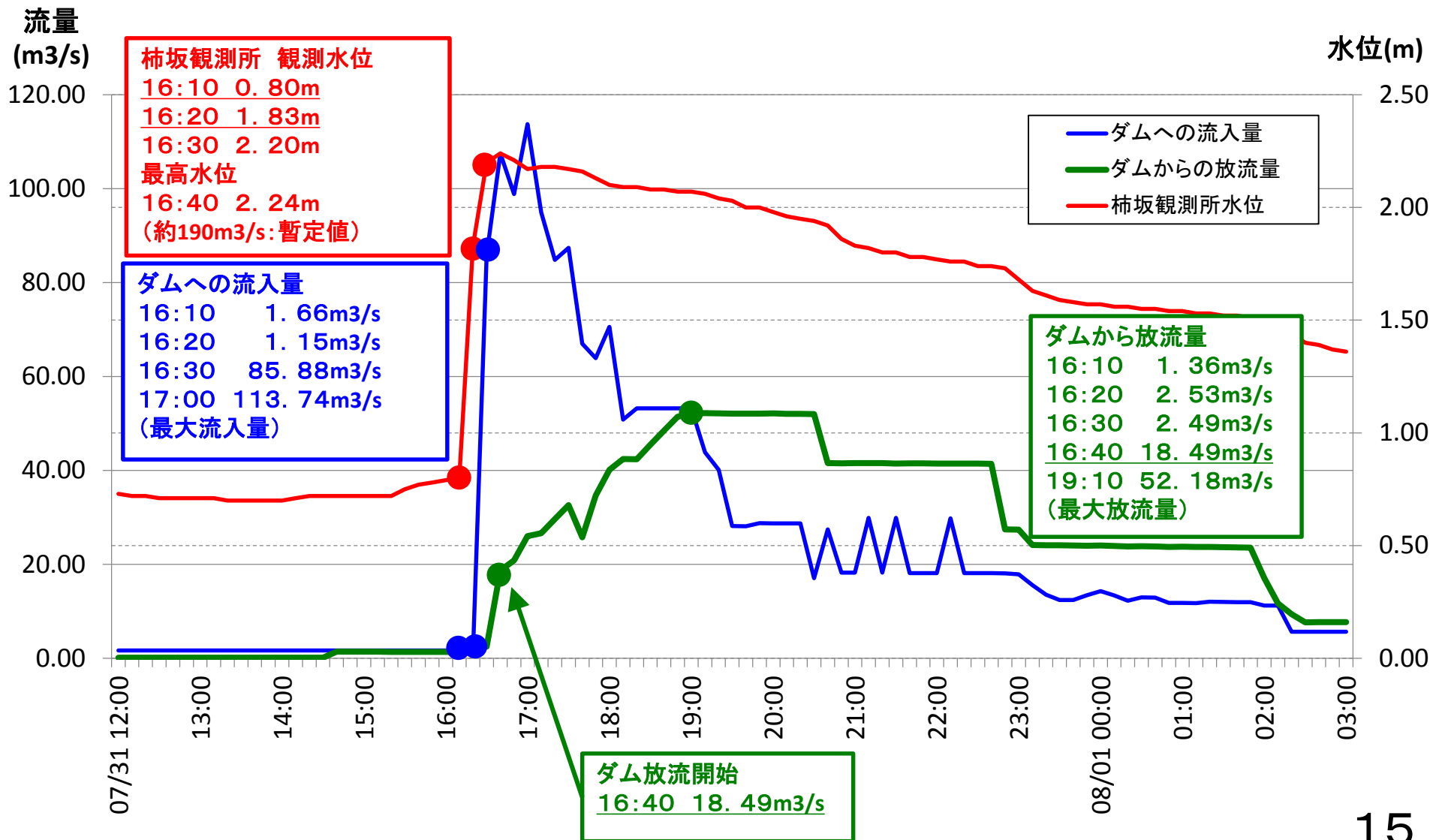
H29.7.31 17:00



H29.7.31出水は、山国川上流部から雨が降り出し、遅れてダム上流部にも降り出しているが、下流部にはほとんど降っていない。
今回の降雨状況では、下流部では雨が降っていなくても河川水位が上昇していることになる。

H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について ～ 出水時 耶馬溪ダムの操作 ～

OH29.7.31 出水：柿坂観測所で16:10から16:20の10分間に1.03mの水位上昇
ダム最大流入量は17:00 約114m³/s、最大放流量は19:10 約52m³/s



水位上昇の様子

平成29年7月31日出水 柿坂水位観測所カメラ



7/31 16:00



7/31 16:10



7/31 16:16
(本川筋から濁流)



7/31 16:17
(本川筋から濁流)



7/31 16:18



7/31 16:19

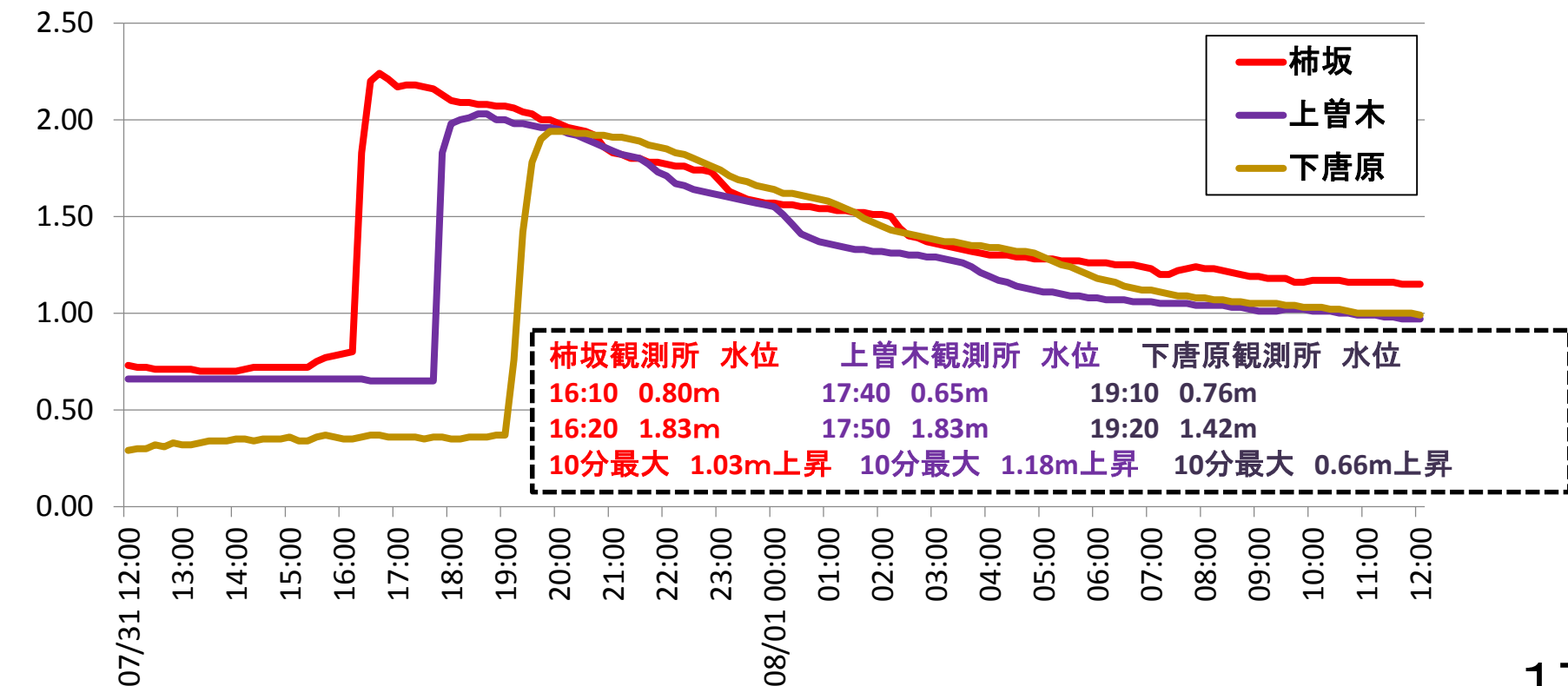
H29.7.31 上流部短時間集中豪雨による急激な水位上昇について

【今回の出水】

主に山国川本川上流部で短時間に雨が降り続いた

→雨が降っていない場所でも、河川水位が急激に上昇する

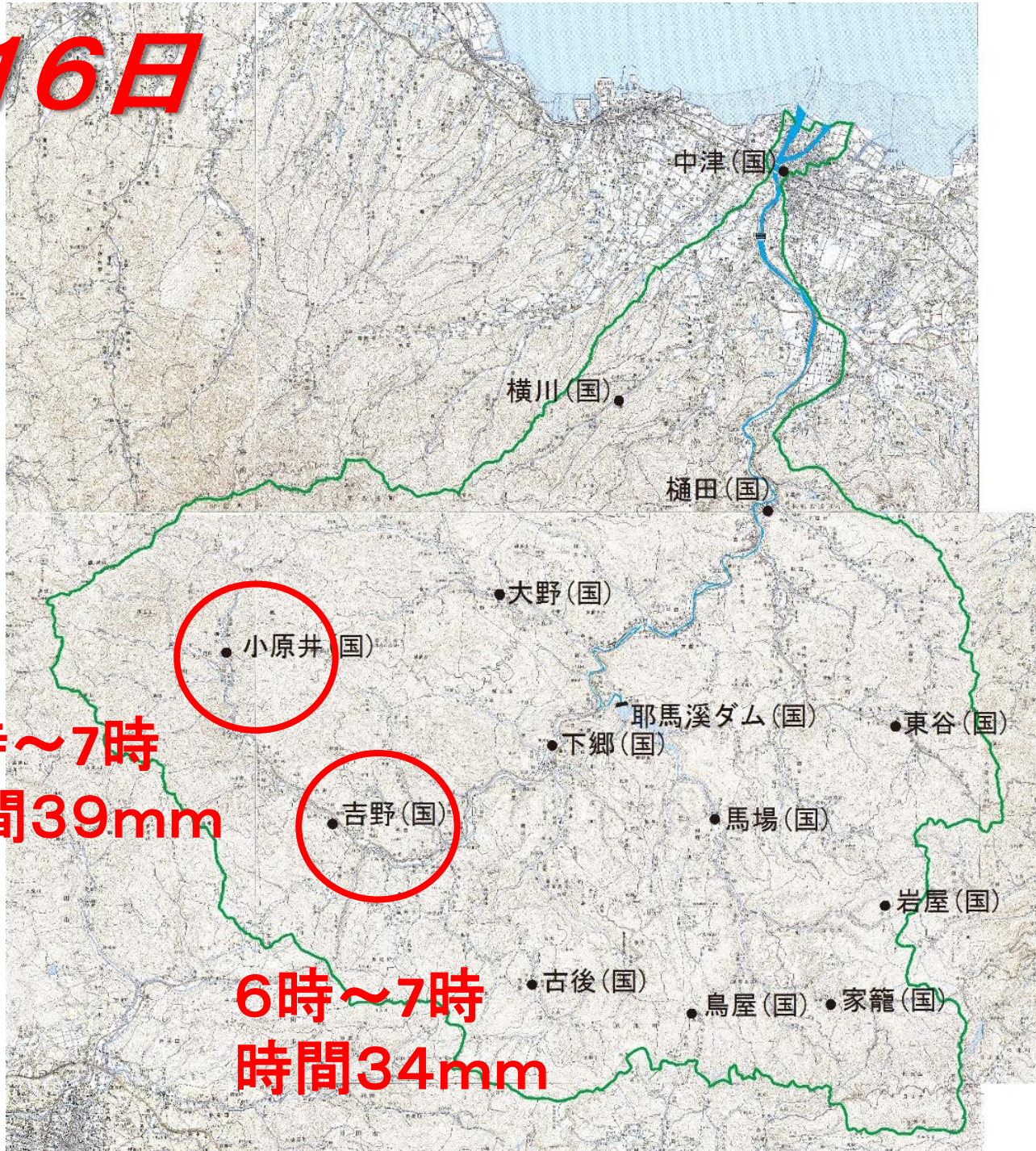
H29.7.31出水 各水位観測所の水位



8月16日

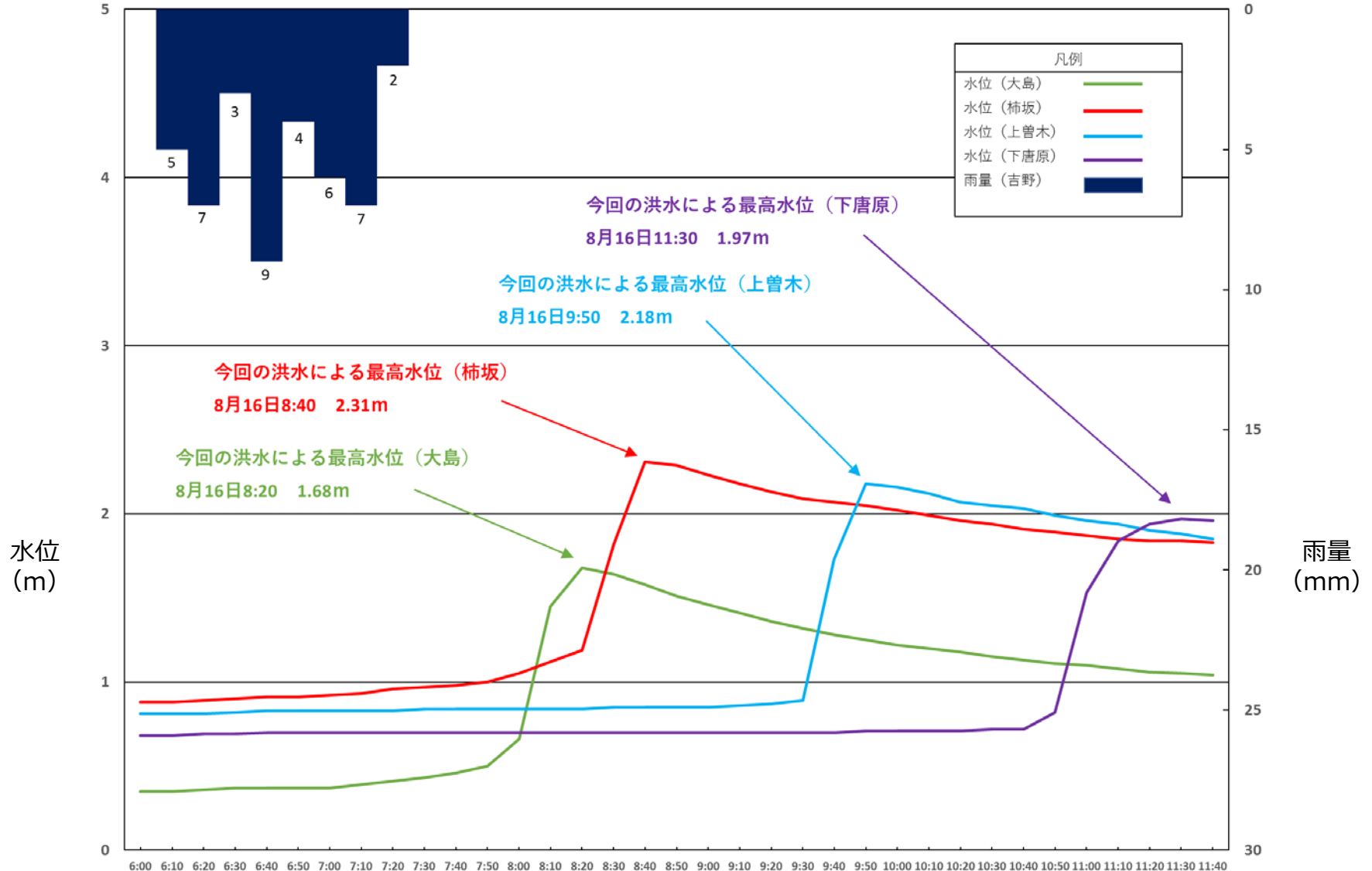
6時~7時
時間39mm

6時~7時
時間34mm



水位の概要（山国川水系山国川）

山国川水系山国川 平成29年8月16日大島・柿坂・上曾木・下唐原水位観測所－吉野雨量観測所



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

急激な水位上昇 2 (山国川水系山国川)

山国川水系山国川の柿坂水位観測所において、8月16日8時40分に急激な水位上昇(0.49m)を記録。上流にある小原井雨量観測所では同日7時の1時間に39mmを記録。



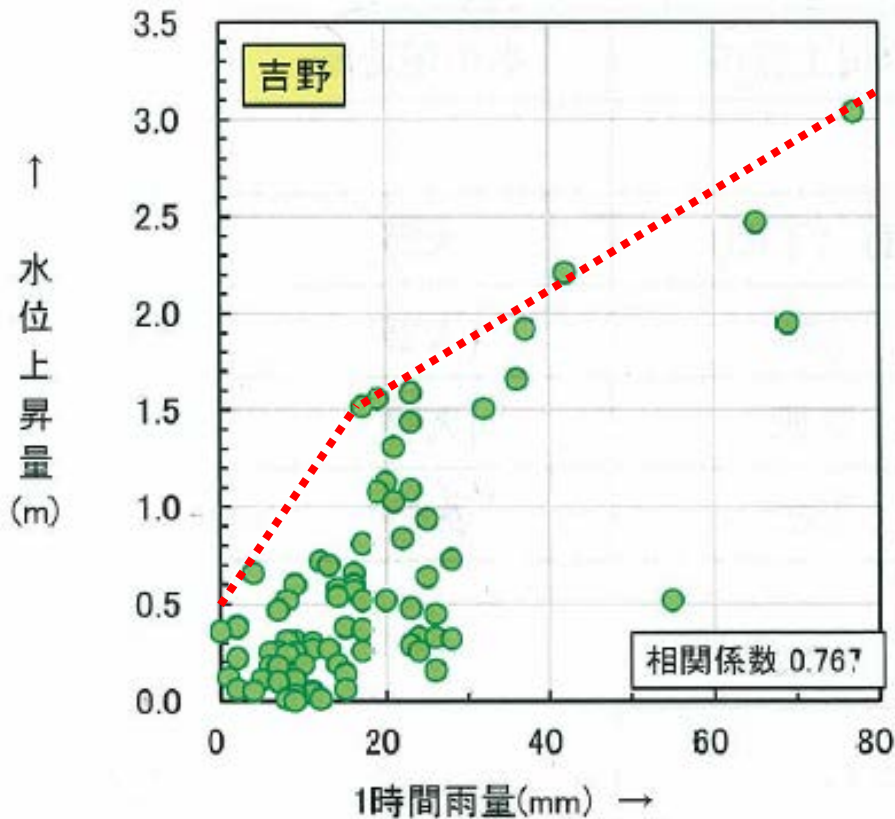
約10分後



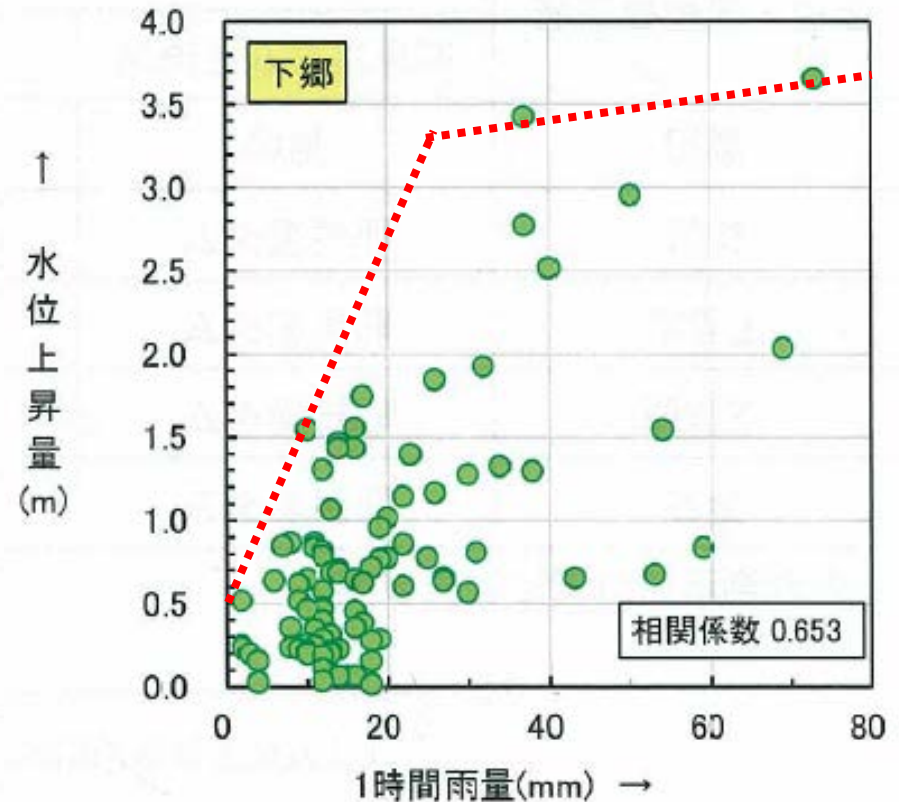
約1時間
(約11km)

実績雨量と水位上昇量との関係

- ・ 柿坂水位観測所では下郷及び吉野雨量観測所との間に水位上昇量と前期降雨との間に若干の相関あり。
- ・ 上曾木、下唐原水位観測所では下郷、吉野及び耶馬溪ダム雨量観測所との間に水位上昇量と前期降雨との間に若干の相関が見られる。



柿坂水位観測所と吉野雨量観測所の1時間雨量



上曾木水位観測所と下郷雨量観測所の1時間雨量

3) 耶馬溪ダムの操作、新たな 取り組み（事前放流の開始） について

耶馬溪ダムの概要

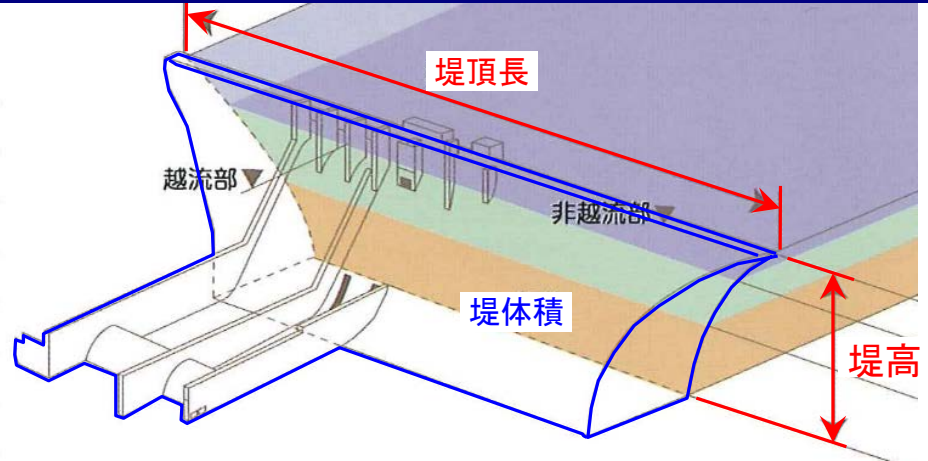
○耶馬溪ダムの諸元

型式: 重力式コンクリートダム

堤高: 62.0m

堤頂長: 313.0m

堤体積: 395,000m³



○貯水池容量配分図

ダム天端標高177.0m

洪水時満水位 標高175.0m

治水容量
1,120万m³

有効貯水容量
2,100万m³

常時満水位 標高162.0m

利水容量
980万m³

堆砂位 標高142.5m

堆砂容量
230万m³

標高115.0m

○耶馬溪ダム流域諸元



山国川流域の幹川流路延長は56km

山国川流域面積: 540km²、

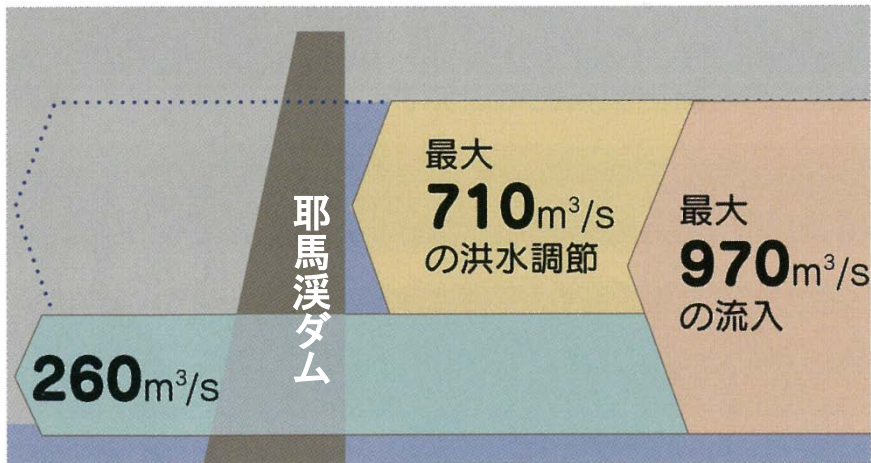
耶馬溪ダム流域面積: 89km²

全国年間降雨量1,700mmに対し耶馬溪ダム付近の近10ヶ年平均で1,970mm(約1.2倍)

耶馬溪ダムが担う役割

○治水の役割

耶馬溪ダムでは、毎秒260m³以上の水を貯水池の治水容量に貯め込んで、ダム下流の河川の流量を減らす役割を果たしています。

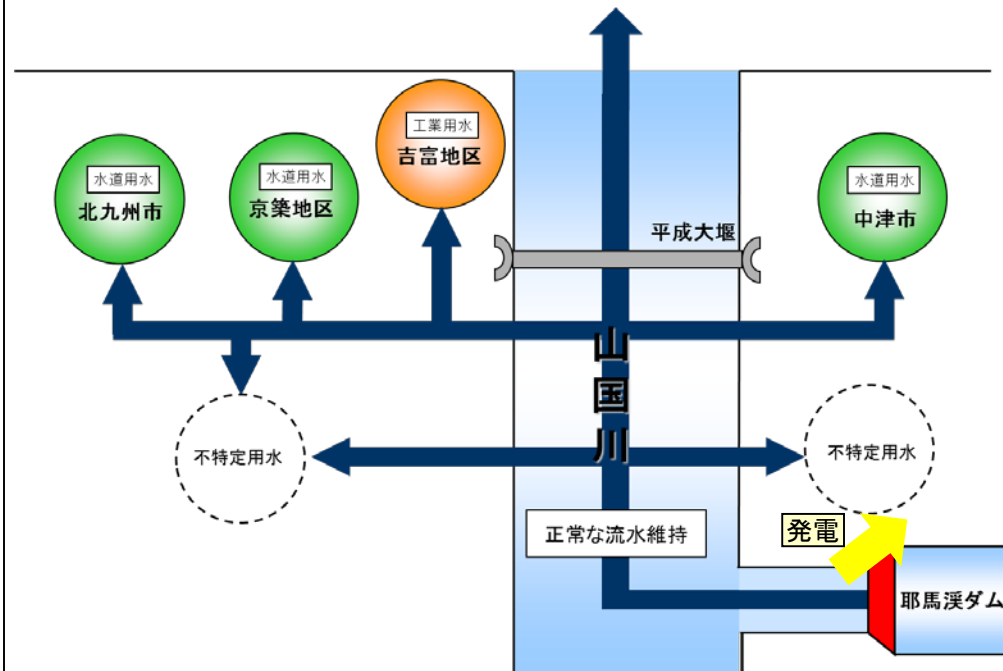


耶馬溪ダムの洪水調節模式図(計画)

※○○m³/s=毎秒○○m³(立法メートル)

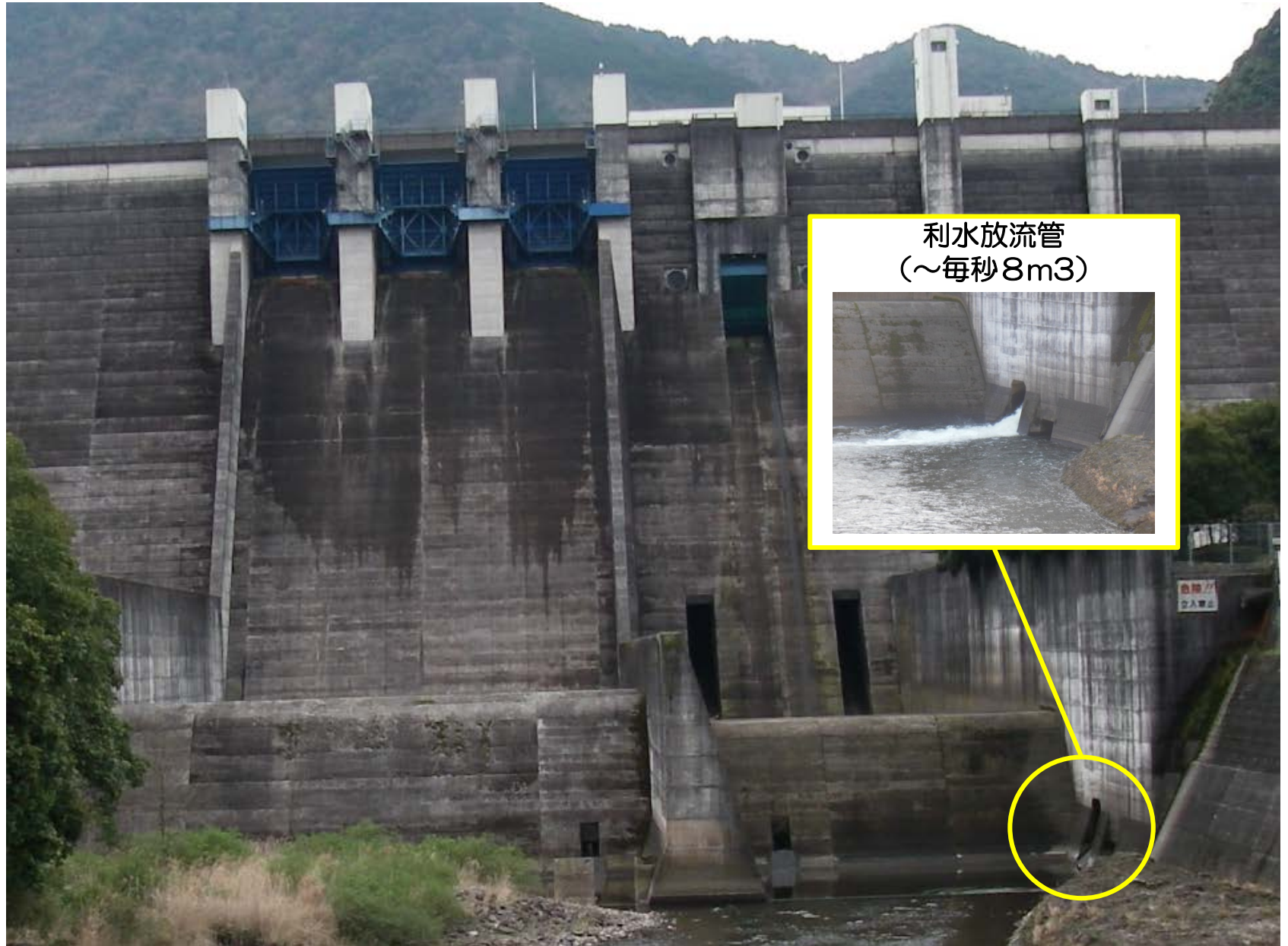
○利水の役割

山国川流域及び周辺地域で水道・工業・不特定用水及び発電のために使用する水を利水容量に溜めて、必要に応じて放流、補給を行っています。

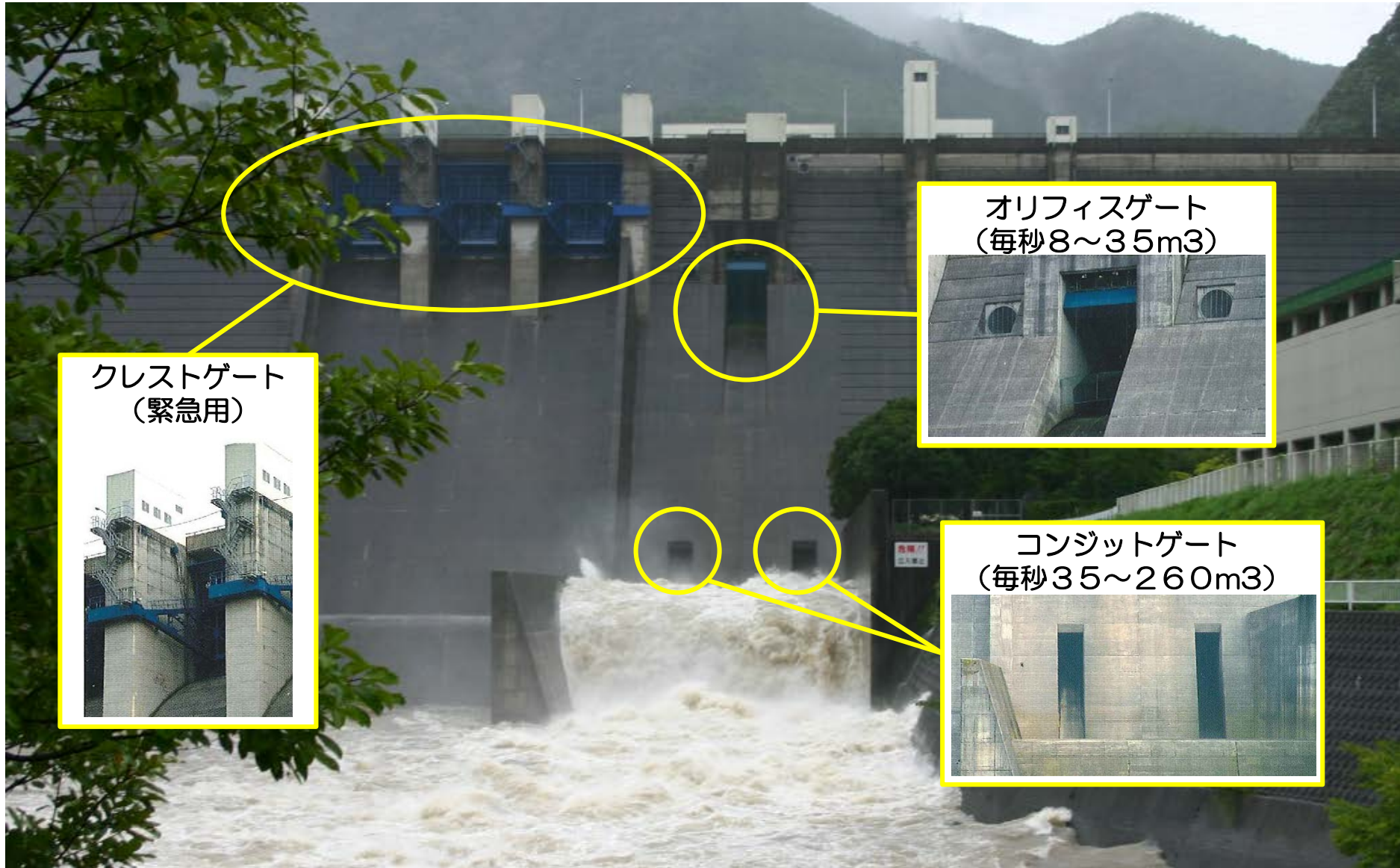


耶馬溪ダムにおける利水

耶馬溪ダム放流設備



耶馬溪ダム放流設備



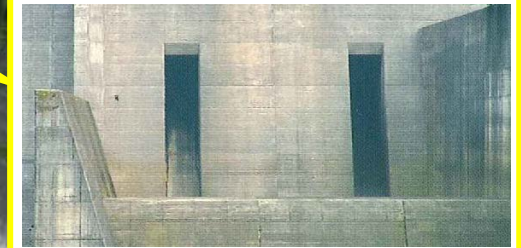
クレストゲート
(緊急用)



オリフィスゲート
(毎秒8~35m³)



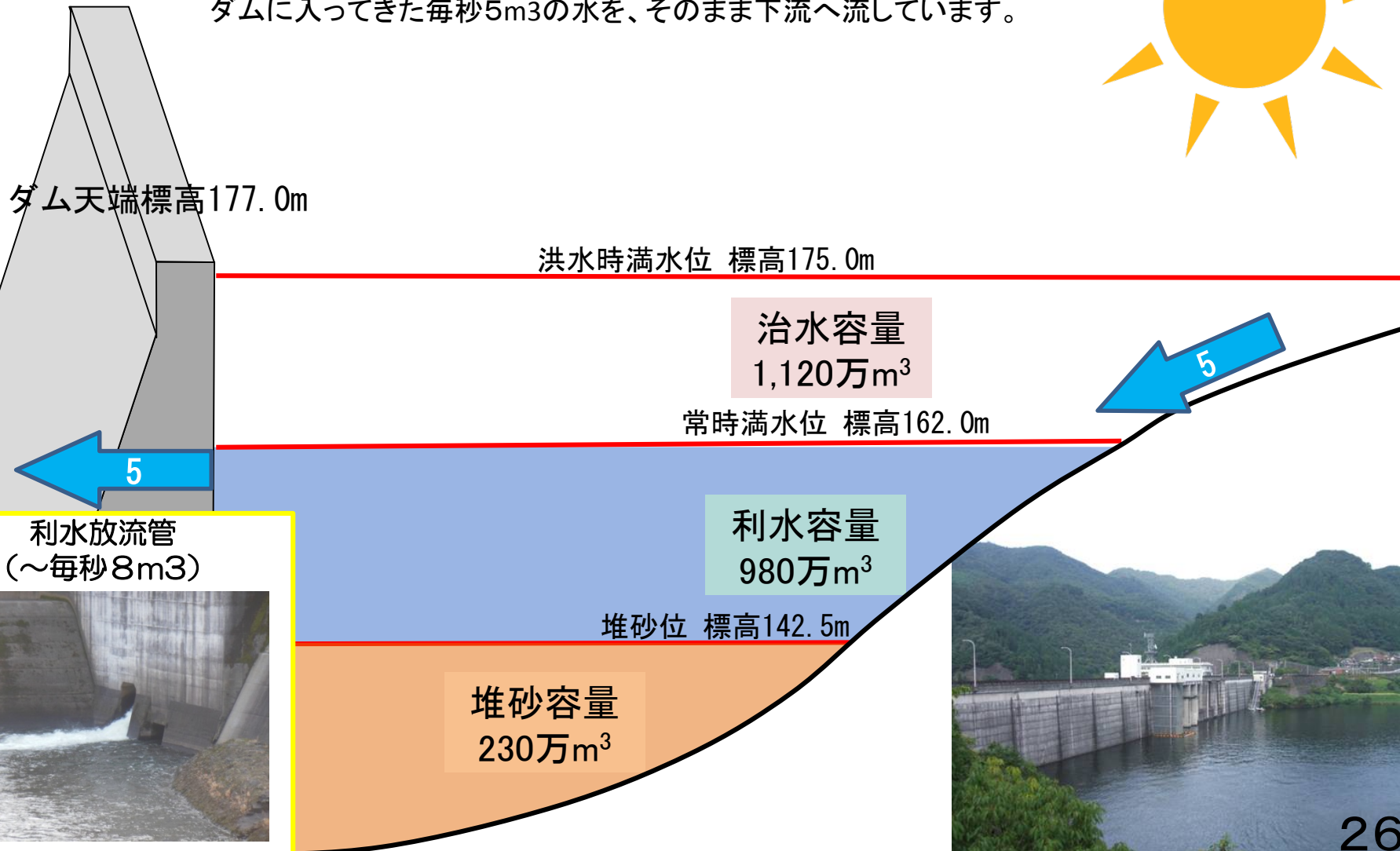
コンジットゲート
(毎秒35~260m³)



天気が良い時のダム操作

○洪水や渇水に備えるため、貯水位が常時満水位付近になるように、ダムから流す水量を調整しています。

○図は、貯水位が常時満水位付近のため、貯水位を維持するよう、ダムに入ってきた毎秒5m³の水を、そのまま下流へ流しています。



雨の時のダム操作(毎秒260m³まで)

○雨が降った時ダムに入ってくる水量は増えますが、耶馬溪ダムは毎秒260m³の水が入ってくるまでは、貯水位が常時満水位付近となるように、天気の良い時と同じ調整をしています。

○図は、貯水位が常時満水位付近のため、貯水位を維持するように、ダムに入ってきた毎秒35m³の水を、そのまま下流へ流しています。



ダム天端標高177.0m

洪水時満水位 標高175.0m

治水容量
1,120万m³

常時満水位 標高162.0m

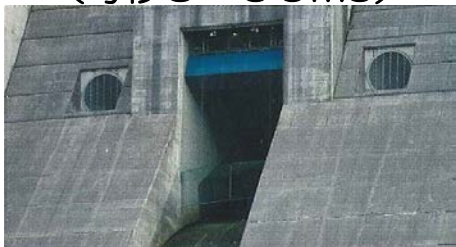
35

35

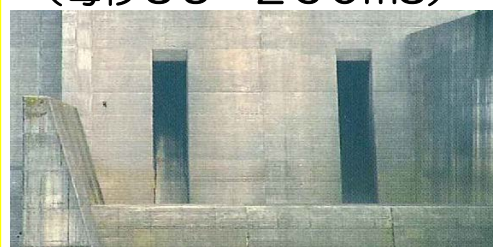
利水容量
980万m³

標高142.5m

オリフィスゲート
(毎秒8~35m³)



コンジットゲート
(毎秒35~260m³)

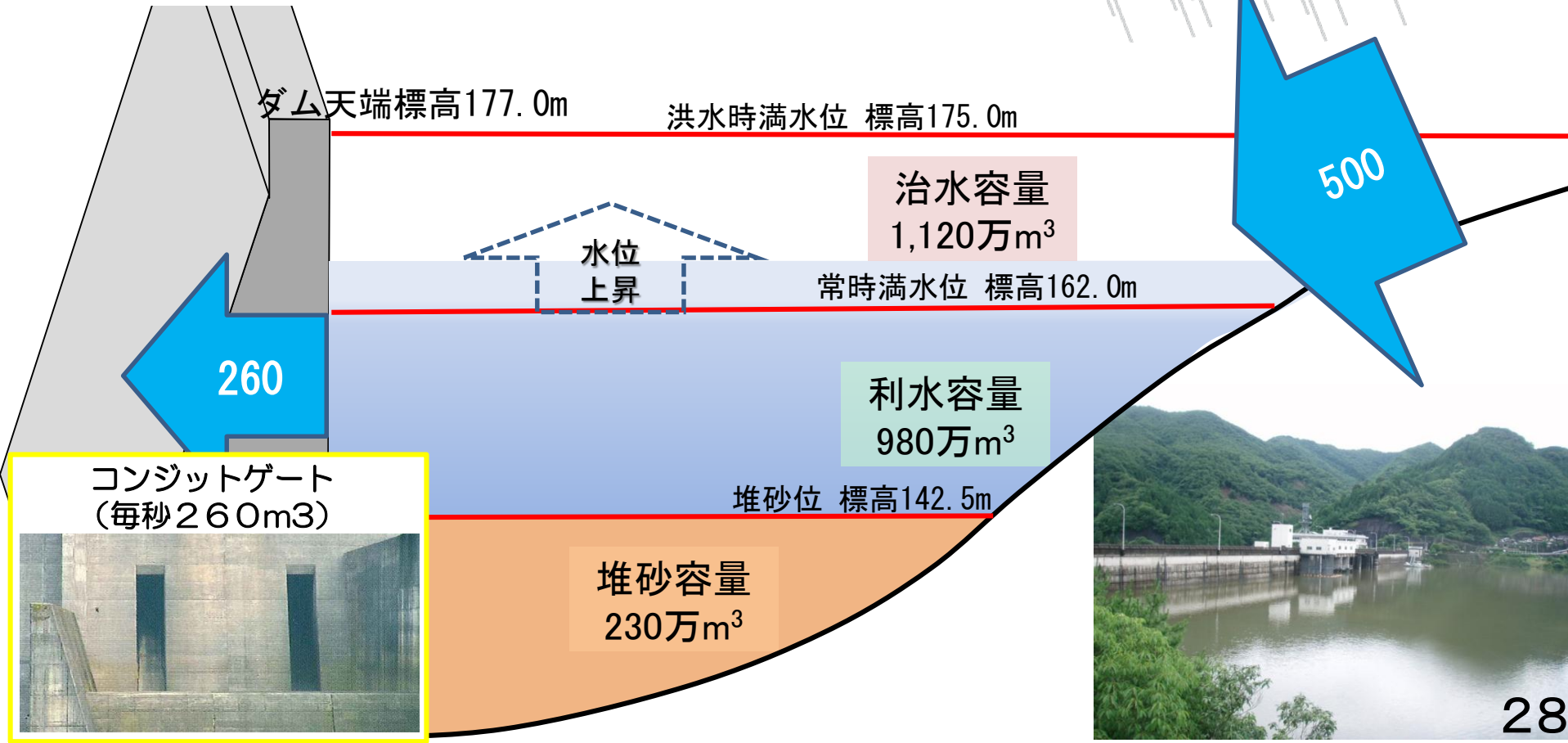
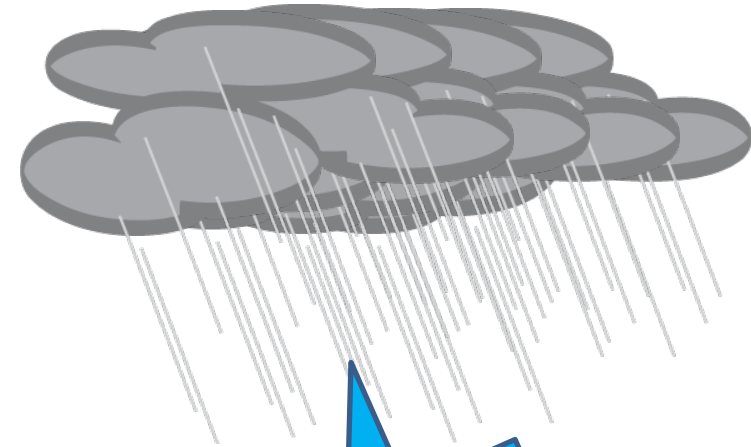


雨の時のダム操作(260m³以上 その1)

○さらに強い雨が降り、ダムに入ってくる水量が毎秒260m³を超えたとき毎秒260m³より多い水量をダムの治水容量に貯め、ダム下流の河川の流量を減らします。

この260m³以上をダムに貯留することを「洪水調節」と呼びます。

○図は、ダムに毎秒500m³の水が入ってきますが、毎秒260m³より多い水量の毎秒240m³分の水を、洪水調節としてダムに貯留するため、ダム貯水位が上昇します。(このケースでは最大260m³を放流します)

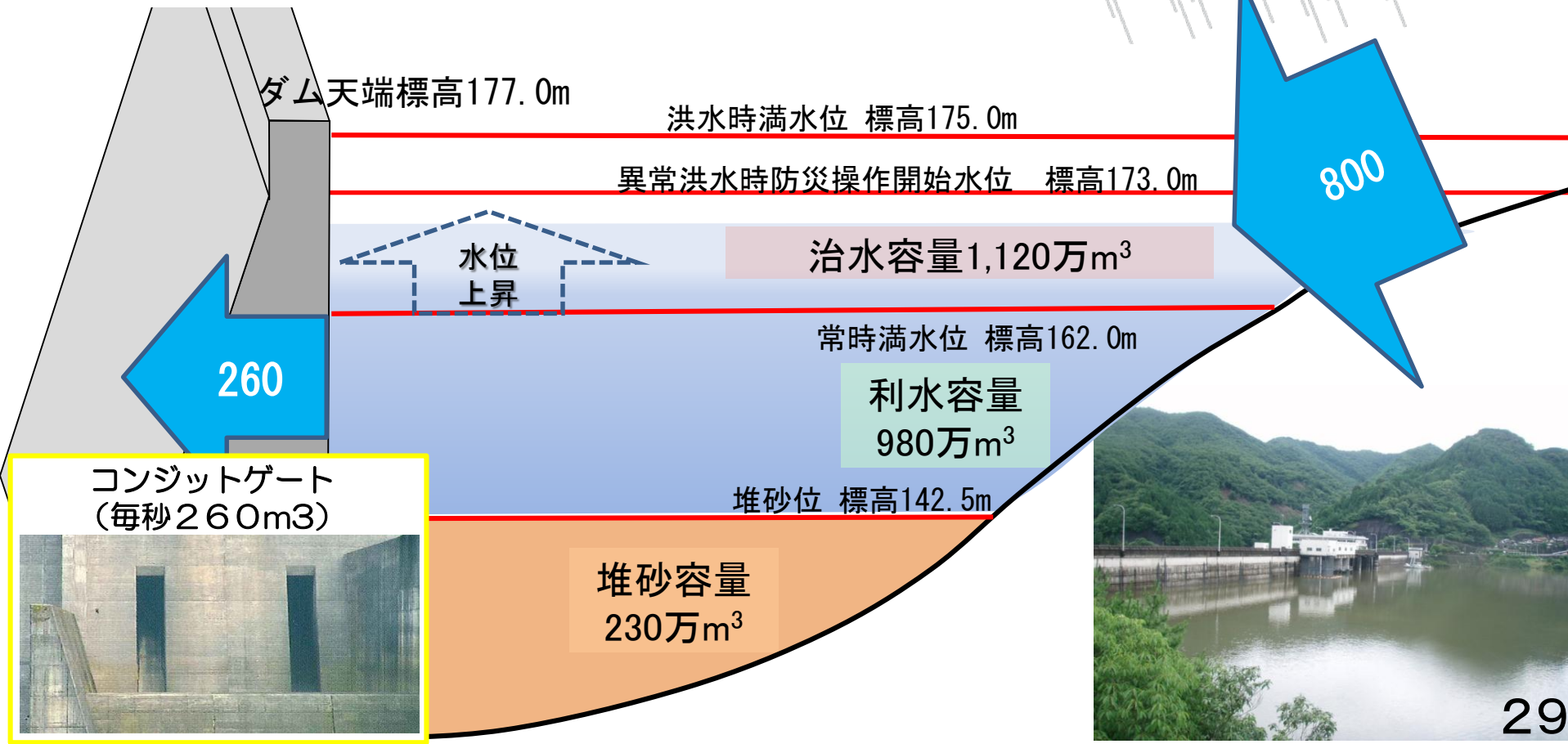


雨の時のダム操作(260m³以上 その2)

○さらに雨が降り続いた場合、ダムの治水容量が少なくなってきました。

下図の異常洪水時防災操作開始水位(標高173.0m)までは、毎秒260m³をダムから放流し、この水位に達すると毎秒260m³より多い水を放流し、ダムの治水容量を最大限に活用します。この操作を「異常洪水時防災操作」と呼びます。

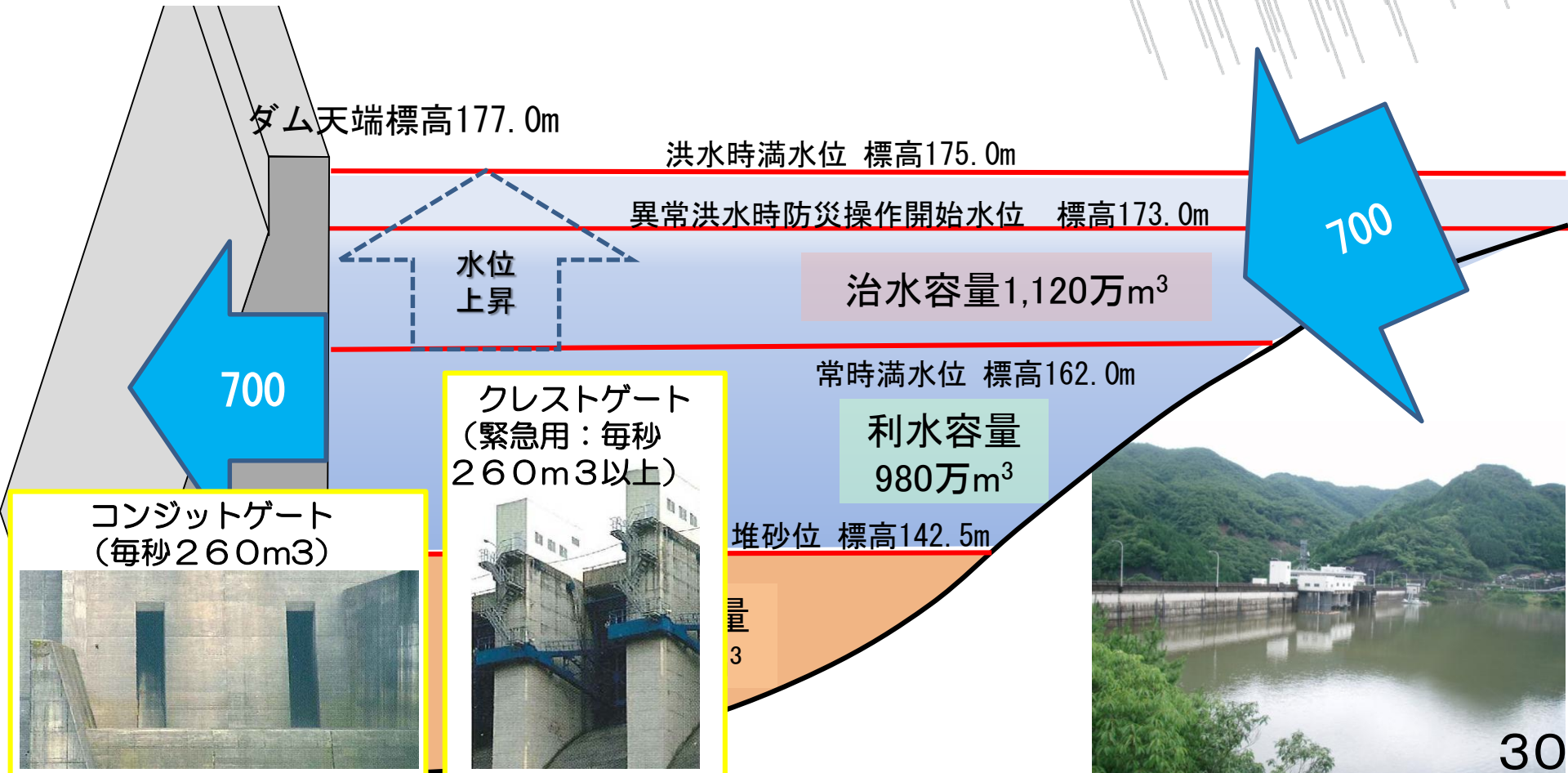
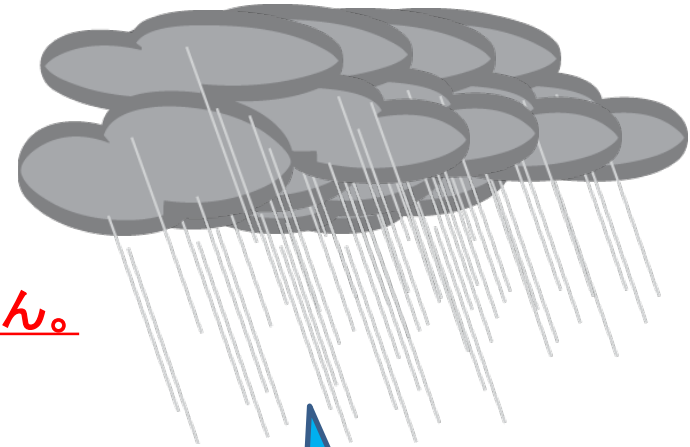
○図は、ダムに毎秒800m³の水が入ってきており、毎秒540m³分の水を洪水調節としてダムに貯留しているため、ダムの水位が上昇しています。



雨の時のダム操作(260m³以上 その3)

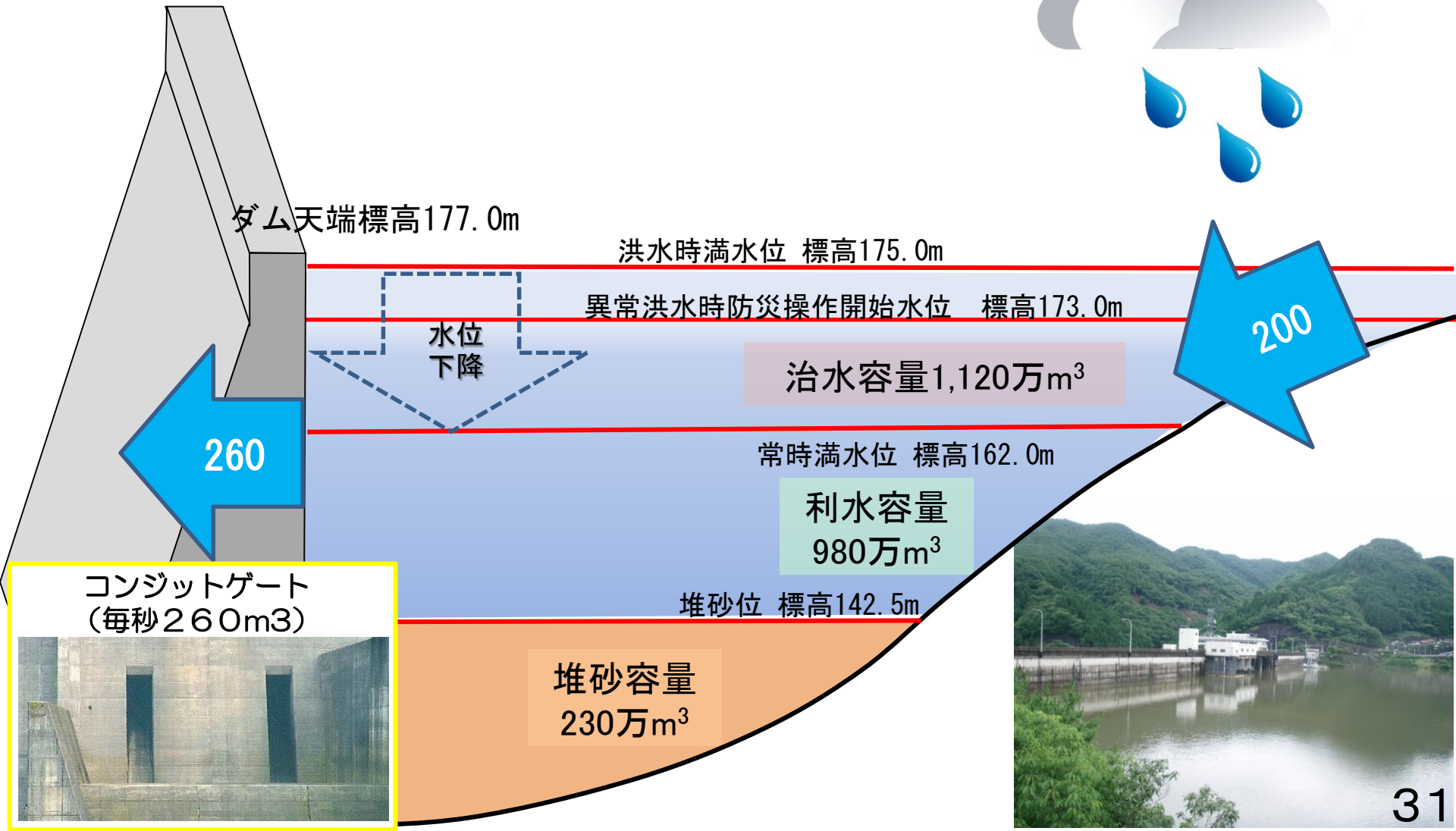
○ダムの水位が、異常洪水時防災操作開始水位 標高173.0mに達するとダムからの放流量を毎秒260m³より多くし、洪水時満水位(標高175.0m)を超えないよう、治水容量を最大限に活用します。

○このケースでも、ダムに入ってきた最大流入量(m³/s)より、多く下流に放流することはありません。



雨の時のダム操作(260m³以上 その4)

○ダムに入ってくる流入量がピークを過ぎ、流入量が毎秒260m³を下回った場合は、次の出水に備え、治水容量を確保するために毎秒260m³を放流し、ダムの水位を低下させます。



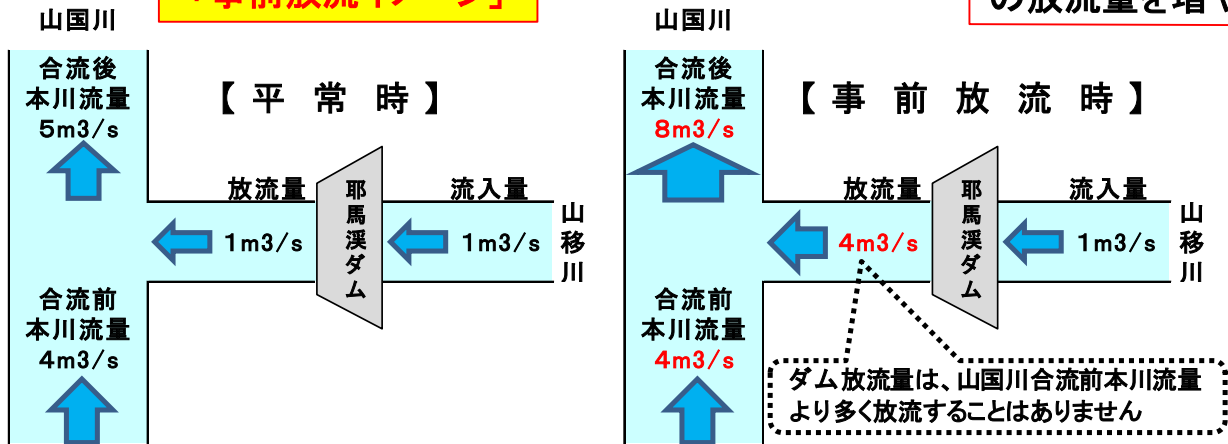
耶馬溪ダムからのお知らせ

～ 今季より「事前放流」を開始します～

○「事前放流」とは...

台風などによる大雨が予想された場合、利水容量の一部を活用し、洪水を貯められる容量を増やし、ダム下流の被害軽減を図るため、事前にダムからの放流量を増やす操作のことで

「事前放流イメージ」

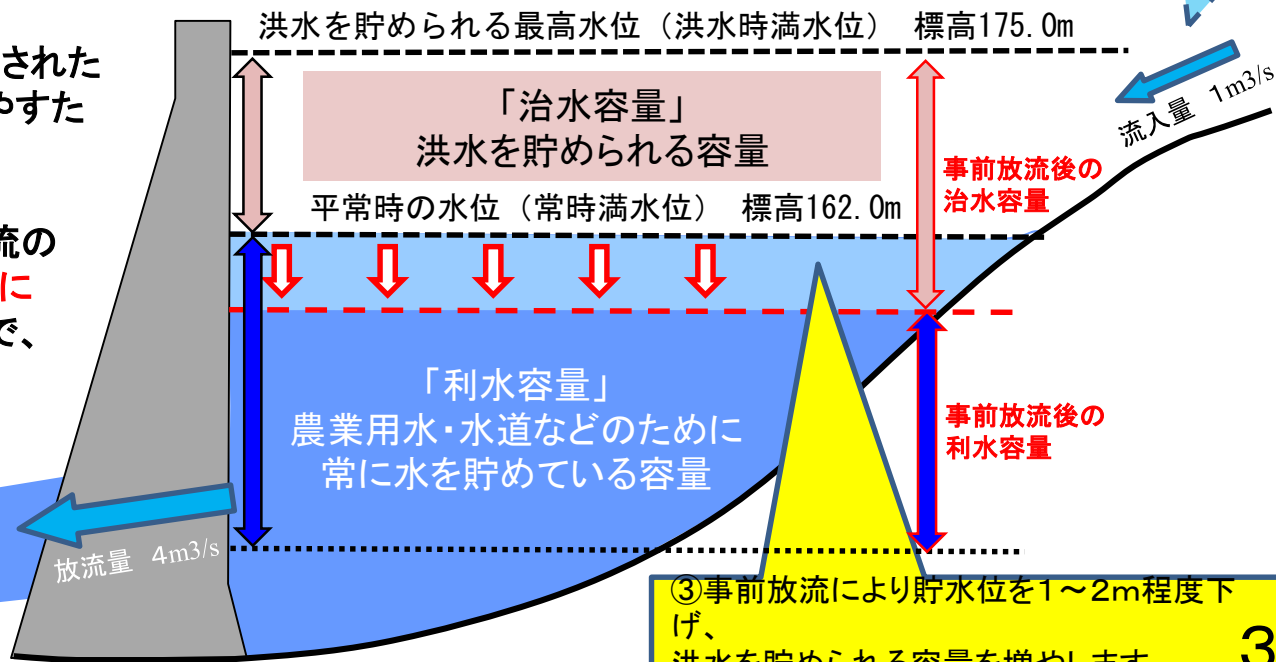


①台風、前線による大雨が予想された場合。

○台風などにより、大雨が降ると予想された場合、洪水を貯められる容量を増やすため、「事前放流」を行います

○「事前放流」を行った場合、ダム下流の河川水位が少しずつ上昇(10分間に3～5cm程度)する事となりますので、ご注意ください

②大雨による洪水を貯められる容量を増やすため、事前放流を開始します。



③事前放流により貯水位を1～2m程度下げ、洪水を貯められる容量を増やします。

耶馬溪ダムからのお知らせ

～ 今季より「事前放流」を開始します～



【スピーカーでの放送内容】

～こちらは 耶馬溪ダムです。
今後 大雨が予想されますので
ダムの水位を下げるため
放流を行います。

川を利用される方は 注意して下さ
い。
～(2回繰り返し)～



左: 情報表示盤と右: スピーカー

晴れの日でも「事前放
流」で、川の水位が変
動する場合もあるの
で、放送に注意してね



事前放流を開始する場合は、耶馬溪ダムと
柿坂警報所からスピーカーでお知らせしま
す。

また、「青の洞門」までは放流情報表示盤で
お知らせします。

※お問い合わせは 下記にご連絡願います。
山国川河川事務所ダム管理課(耶馬溪ダム)
TEL 0979-54-3136

急激な水位上昇に対する啓発

平成29年7月31日出水 柿坂水位観測所カメラ



7/31 16:00



7/31 16:10



7/31 16:16
(本川筋から濁流)



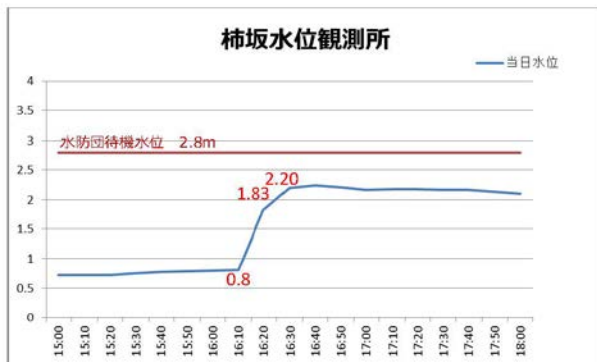
7/31 16:17
(本川筋から濁流)



7/31 16:18



7/31 16:19



10分間で1mの水位上昇

上流地区の雨量データより
避難がとれる対応が必要

啓発標識の設置 (ピクト標準案)



雨が降ったら、
川からあがろう

上流で雨が降ると急に増水
します。

国土交通省 山国川河川事務所



水管理・国土保全局同時発表

平成 29 年 7 月 18 日
九州地方整備局
10 時 30 分

権限代行による福岡県管理河川の土砂・流木の除去を国が緊急的に実施 ～改正河川法で新たに創設した制度の適用第 1 号～

九州北部における豪雨により、福岡県管理区間の筑後川水系赤谷川、大山川及び乙石川（いずれも朝倉市）では、大量の土砂や流木が流出しており、福岡県知事からの要請を受け、国が権限代行により緊急的な河道の確保に向けた土砂等の除去を実施します。

この権限代行制度は、先の国会で成立した改正河川法に基づき新たに創設したものであり、今回全国で初めて新制度を適用します。

九州北部における豪雨では、筑後川右岸側を中心に甚大な被害が発生しました。特に、赤谷川、大山川、乙石川の流域では、上流で山腹崩壊が多数発生したことに伴い、大量の土砂や流木により河道が埋塞し、次の出水時に二次災害が発生するおそれが極めて高い状況となっています。このため、緊急的な対策が必要であるとともに、土砂の流動性が高いことなどにより高度な技術を要することから、福岡県知事からの要請を受け、改正河川法に基づく新たに創設した権限代行制度により、国が緊急的な河道の確保に向けた土砂等の除去を実施します。

○河川の名称 筑後川水系赤谷川、大山川、乙石川

○区 間 赤谷川 筑後川との合流点から朝倉市杷木赤谷地先まで
大山川 赤谷川との合流点から朝倉市杷木大山地先まで
乙石川 赤谷川との合流点から朝倉市杷木松末地先まで

○工事の内容 河道内の堆積土砂及び流木の除去

○工事開始の日 平成 29 年 7 月 18 日（火）

（参考）河川法の改正を含む水防法等の一部を改正する法律の概要

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizukokudo02_tk_000001.html

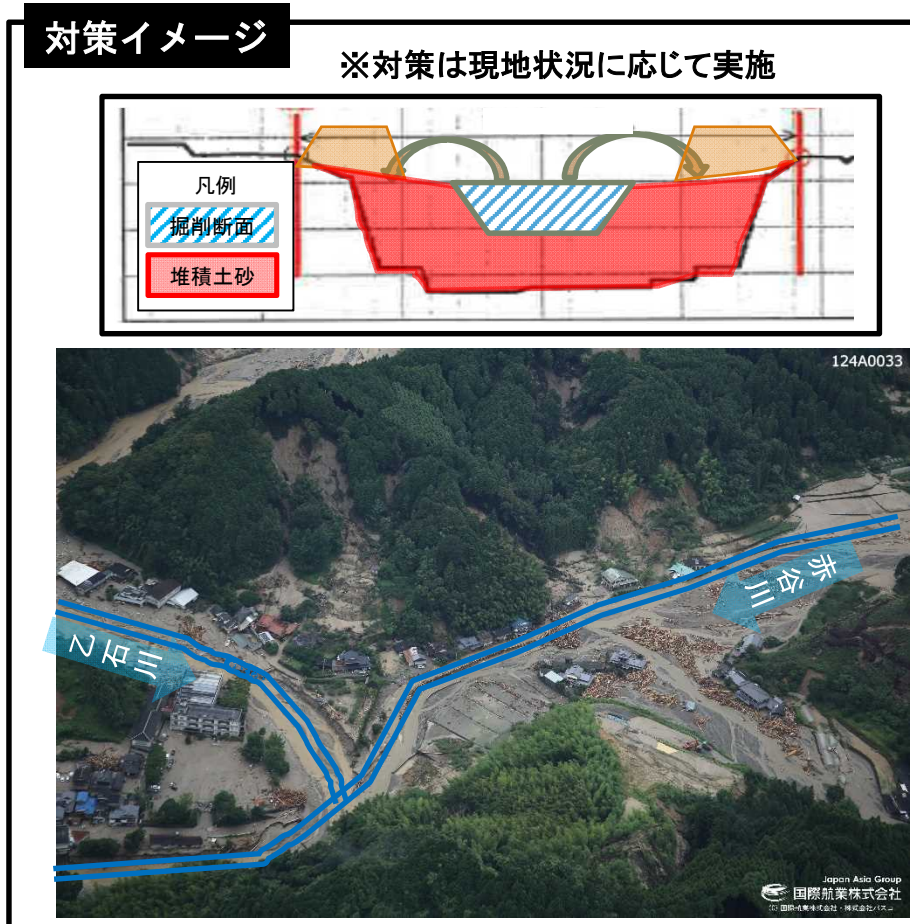
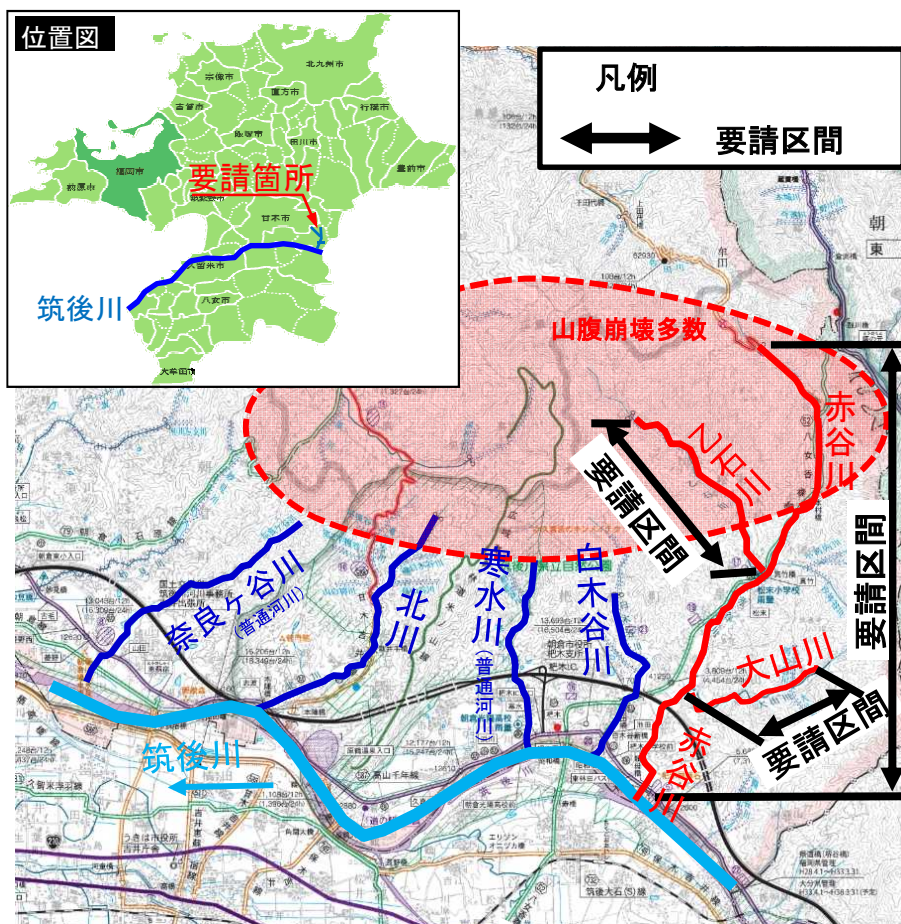
〈問い合わせ先〉

【制度に関すること】 国土交通省水管理・国土保全局 治水課
企画専門官 森久保 司（内線：35514）
課長補佐 斉藤 喜浩（内線：35572）
代表：03(5253)8111 直通：03(5253)8454

【実施内容に関すること】 九州地方整備局 河川部河川計画課
課 長 坂井 佑介（内線：3611）
建設専門官 森 康成（内線：3619）
代表：092(471)6331 直通：092(476)3523

権限代行による福岡県管理河川の土砂・流木の除去について

- ・福岡県が管理している筑後川水系赤谷川、大山川及び乙石川(いずれも朝倉市)において、土砂や流木により河道が埋塞し、次の出水時に二次災害が発生するおそれが極めて高い状況。
- ・緊急的な対策が必要であるとともに、土砂の流動性が高いことなどにより高度な技術を要することから、福岡県知事からの要請を受け、国において権限代行により緊急的に土砂や流木の除去を実施。
- ・今般の国会で成立した改正河川法に基づき新たに創設した新制度。【適用第1号】

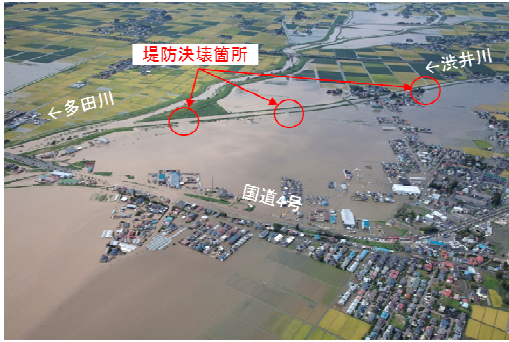


【改正河川法 平成29年6月19日施行】 都道府県管理河川等における改良工事、災害復旧工事等の権限代行

- 激甚化する豪雨等に対応するため、迅速かつ高度な災害復旧工事や、ダム等の施設能力を向上させるための高度な再開発工事等を実施する必要性が高まっている。
- 他方、**都道府県等では人員の不足や技術力の低下が懸念**されており、今後、都道府県管理河川等でこれらの工事を的確に実施できなくなるおそれがある。
- そこで、これらの工事について、国が代わって実施できる**権限代行制度を創設**し、地域の河川の安全を確保する。

高度な災害復旧工事の例

背景



大規模な浸水を伴う複数の破堤箇所を緊急復旧する場合等、迅速かつ効果的な災害復旧を行うために高度な技術力、機械力が必要となる。

例：平成27年9月関東・東北豪雨（鳴瀬川水系茨井川）における災害復旧工事（宮城県大崎市）

高度な改良工事・修繕の例

背景

都道府県等が管理するダム等では、今後、雨の降り方が激甚化していることを踏まえ、高度な技術力、機械力が必要となる大規模な改良工事や修繕が必要となる。



例：笠堀ダム（新潟県）の再開発
ダムの高上げ（※）やゲートの更新等を行うことでダムの洪水調節容量を増強し、下流への流下量の低減とそれによる水害予防を図るもの
※写真の水色箇所へのコンクリートの新設等

国による工事の権限代行

代行の対象 ➤ 一級河川の指定区間及び二級河川における河川に関する工事（改良工事・修繕・災害復旧が対象）

代行の要件

- 都道府県等から要請があること
- 当該工事が、高度の技術力又は機械力を使用して実施することが適当であると認められるものであること
- 都道府県等の工事の実施体制その他の地域の実情を勘案して、代行することが適当と認められること

費用負担 ➤ 通常の事業実施と同じ費用を負担する（都道府県等は費用から負担金等相当額等を控除した額を負担）



水管理・国土保全局同時発表

平成29年8月15日
水管理・国土保全局砂防部保全課
九州地方整備局河川部河川工事課

赤谷川流域において新たに国直轄による緊急的な砂防工事を実施します

九州北部豪雨により流出した土砂や流木による二次災害の防止を図るため、筑後川水系赤谷川流域（福岡県朝倉市）において直轄砂防事業により、速やかに砂防堰堤等の整備に着手します。

今般の災害で、崩壊土砂や流木が多量に発生した赤谷川流域においては、現在、国が権限代行制度により緊急的な河川の掘削等を実施しているところですが、この度、福岡県知事から要望を受け、砂防工事についても新たに国直轄で実施することとしました。

赤谷川流域は、崩壊が多数発生し、上流部に不安定な状態で堆積している土砂や流木が残存しており、加えて風化花崗岩地質であるため、比較的小規模な降雨でも流出するおそれがあることから、河川の掘削と一体的に流域全体の二次災害の防止を図るため、直轄砂防事業により、速やかに砂防堰堤等の整備に着手することとしました。

【実施箇所】

福岡県朝倉市（はきますえ 杷木松末地区）

【実施内容】

砂防堰堤工2基、遊砂地工1基、強靱ワイヤーネット工4基

《問い合わせ先》

【事業全般に関すること】 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部保全課
企画専門官 小竹 利明（内線：36222）
大規模土砂災害対策係長 大西 竜太（内線：36214）
代表：03(5253)8111 直通：03(5253)8470 FAX：03(5253)1611

【現地工事に関すること】 国土交通省 九州地方整備局 河川部河川工事課
河川工事課長 大野 誠（内線：3711）
代表：092(471)6331 直通：092(476)3526 FAX：092(476)3472

平成29年7月九州北部豪雨により福岡県朝倉市で発生した土砂災害に対して 直轄砂防災災害関連緊急事業を実施します

国土交通省砂防部
平成29年8月15日

筑後川水系赤谷川流域において発生した土砂災害について、流域内に堆積した不安定土砂等の再移動による二次災害を防ぐための緊急的な砂防工事を実施します。(全体事業費:約28億円)



【筑後川水系赤谷川】

福岡県朝倉市杷木松末地区

- 平成29年7月九州北部豪雨による被害状況
人家275戸(杷木地域)*、公共施設、県道52号等
- 主な対策工
砂防堰堤工2基、遊砂土工1基、
強靱ワイヤーネット工4基

※:朝倉市HP災害情報より(8月9日時点)

赤谷川上流に残存する
土砂・流木の状況

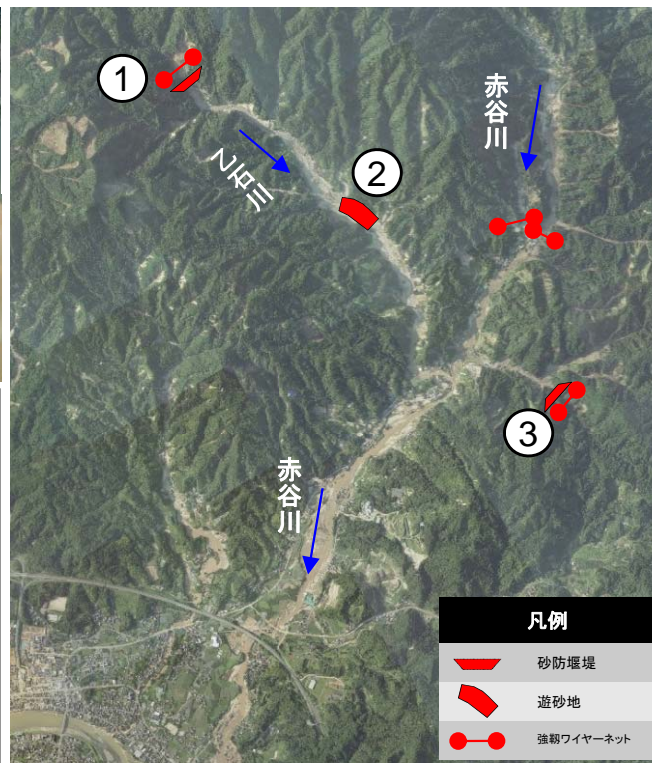


7月20日撮影

赤谷川下流の状況(本川合流点)



7月10日撮影

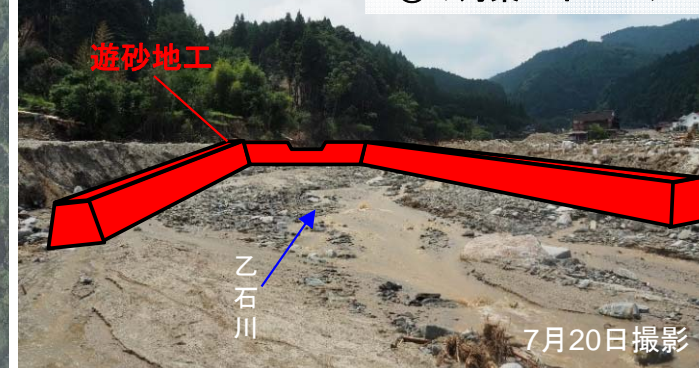


凡例

- 砂防堰堤
- 遊砂地
- 強靱ワイヤーネット

現地測量等の結果によっては、
施設の位置等は変更となる場合があります。

②の対策イメージ



7月20日撮影

①の対策イメージ



7月7日撮影

③の対策イメージ



7月8日撮影

大きな災害を受けて直ちに直轄砂防災害関連緊急事業により工事に着手した事例

水系等名	実施年度	災害概要
栗駒山系	H20	平成20年岩手・宮城内陸地震により、岩手県・宮城県内において河道閉塞が15箇所発生。
防府山系	H21	平成21年7月中国・九州北部豪雨により、山口県防府市の各所で土石流が発生。
紀伊山地	H23	平成23年9月の台風12号により、大規模な斜面崩壊が発生し、奈良県、和歌山県において河道閉塞が17箇所発生。
奈半利川水系	H23	平成23年7月の台風6号により、高知県北川村において大規模な山腹崩壊に伴う土石流が発生。
矢部川水系	H24	平成24年7月九州北部豪雨により、大規模な斜面崩壊が発生。また、崩壊土砂により河道の一部閉塞が併せて発生。
阿蘇大橋地区	H28	平成28年熊本地震により、熊本県南阿蘇村において大規模な斜面崩壊が発生。
筑後川水系 赤谷川	今回	平成29年7月九州北部豪雨により、福岡県朝倉市、東峰村において多数の山腹崩壊が発生し多量の土砂と流木が流出。

位置図





平成 29 年 8 月 24 日
九州地方整備局
福岡県
16時00分

『筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会』 を設置します

- 平成29年7月九州北部豪雨により、筑後川中流部右岸の支川において、流木や土砂の流出等により激甚な被害が発生しました。
- 特に、赤谷川水系では、多量の土砂や流木により河道が埋塞し、二次災害が発生するおそれが極めて高い状況にあることから、福岡県知事からの要請（7月14日）を受け、権限代行制度により、国による緊急的な河道の確保に向けた土砂等の除去（7月18日）に着手しています。
- また、河川の掘削と連携して流域全体の二次災害の防止を図るため、国直轄により、砂防堰堤等の整備（8月15日）に着手しています。
- 今後、本格的な復旧計画を検討するにあたって、河川工学や砂防学の学識者や国、県、研究機関からなる「筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会」を設置し、赤谷川水系をモデル河川として河川事業・砂防事業が連携した復旧の基本的な考え方をとりまとめることとしましたのでお知らせします。
- なお、第1回委員会の開催日程は、決まり次第お知らせいたします。

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局

河川部 河川計画課長 坂井 佑介

電話：092-471-6331（代表）

福岡県 県土整備部 河川課 課長技術補佐 吉武 範幸

電話：092-643-3668

砂防課 参事補佐 北野 靖

電話：092-643-3679

平成29年7月九州北部豪雨を踏まえた対策

災害の原因の調査等を進めた上で、再度災害防止・減災の観点から、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策プロジェクトを地域と連携しながら推進するとともに、得られた知見を全国に展開。

山地部の河川 (土砂や流木の流出等により甚大な洪水被害が発生した河川:赤谷川等)

<筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会>

○目的

土砂や流木の流出等により激甚な被災を受けた筑後川中流部右岸の支川に関し、技術的な観点から検討を行い、河川事業・砂防事業が連携した復旧に必要な基本的な考え方をとりまとめ

○メンバー

学識者、国土技術政策総合研究所、土木研究所、福岡県、九州地方整備局
※オブザーバーとして関係自治体も参加

○検討事項

- ・被災状況、発生流量、発生土砂量、発生流木量等の整理
- ・発生土砂の抑制方策の検討
- ・土砂を考慮した赤谷川の河道整備方策の検討
- ・効果的な河川事業・砂防事業の連携方策の検討
- ・事業を踏まえた地域の安全性確保方策の検討 等

○事務局

九州地方整備局、福岡県

平野部の河川 (洪水氾濫による被害が発生した河川:花月川等)

<流域懇談会等> 必要に応じ学識者の意見を聴取

※大規模氾濫減災協議会においてソフト対策の検討を実施するなど、上記以外の取り組みも実施。



砂防事業
河川事業
等へ反映

九州北部豪雨 防災・減災対策プロジェクト (仮称)